

日本気象学会 2005 年度秋季大会

会期 : 2005 年 11 月 20 日(日)～22 日(火)
 会場 : 神戸大学六甲台地区 (神戸市灘区六甲台町 1-1)
<http://www.kobe-u.ac.jp/info/access/rokko/>

大会実行委員会担当機関 : 大阪管区気象台, 神戸大学, 神戸海洋気象台, 京都大学,
 大阪大学, 大阪教育大学, 大阪府立大学, 奈良女子大学,
 総合地球環境学研究所, (財)日本気象協会関西支社

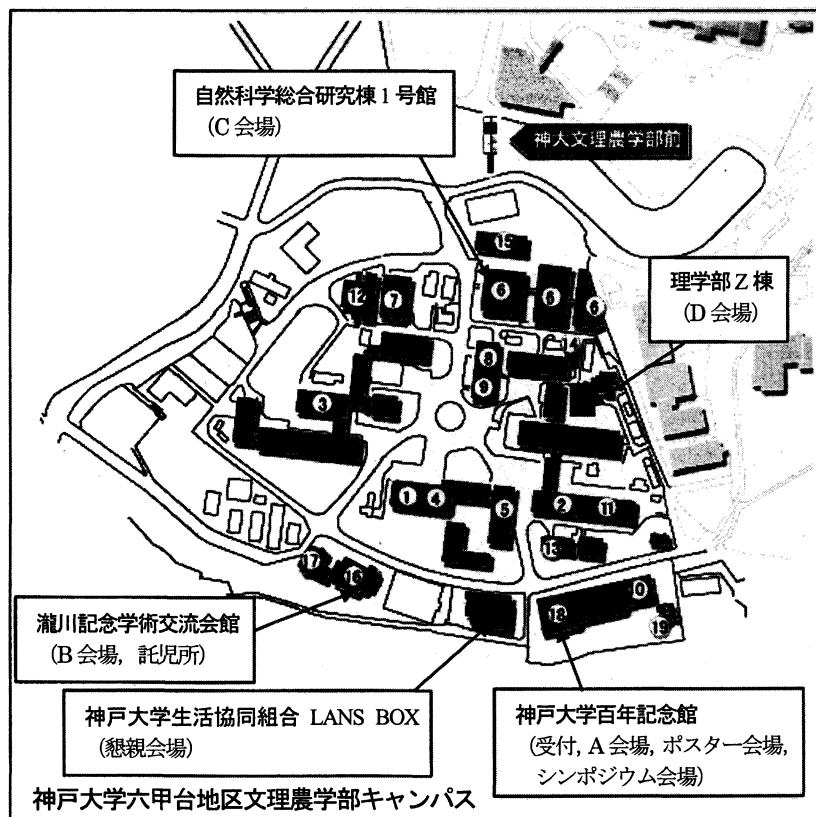
大会委員長 : 小佐野 慎悟(大阪管区気象台)

当日の会場への連絡先 : 大会実行委員会事務局 (TEL : 078-803-5294)

交通の案内

- ・徒歩 : 阪急電車「六甲」駅から約 15～20 分
- ・バス : JR 西日本「六甲道」駅, 阪急電車「六甲」駅, 阪神電車「御影」駅から神戸市バス 36 系統
 (鶴甲団地行き, もしくは鶴甲 2 丁目止まり行き) に乗車し, 「神大文理農学部前」下車
- ・タクシー : JR 西日本「六甲道」駅から約 10～15 分, 阪急電車「六甲」駅から約 5～10 分,
 阪神電車「御影」駅から約 15～20 分

会場案内図



- ①文学部
- ②理学部
- ③農学部
- ④文学研究科
- ⑤文化科学研究科
- ⑥自然科学研究科
(1号館・2号館)
- ⑦連携創造センター
- ⑧遺伝子実験センター
- ⑨バイオシグナル研究センター
- ⑩神戸大学百年記念館
(留学生センター)
- ⑪分子フォトサイエンス研究センター
- ⑫研究基盤センターアー
イノトープ部門
- ⑬研究基盤センター極
低温部門
- ⑭環境管理センター
- ⑮ベンチャー・ビジネ
ス・ラボラトリー
- ⑯瀧川記念学術交流会
館
- ⑰眺望館
- ⑱神戸大学百年記念館
(神大会館)
- ⑲山口誓子記念館

大会行事予定

A会場 : 神戸大学百年記念館六甲ホール (2階) シンポジウム・各賞授与式会場 : 神戸大学百年記念館六甲ホール (2階)
 B会場 : 瀧川記念学術交流会館大会議室 (2階) 受付 : 神戸大学百年記念館ロビー (1階)
 C会場 : 自然科学総合研究棟1号館大会議室 (2階) 大会事務局 : 神戸大学百年記念館会議室B (3階)
 D会場 : 理学部Z棟多目的室A・B (2階) 懇親会 : 神戸大学生活協同組合 LANS BOX (1階)
 ポスター会場 : 神戸大学百年記念館ロビー (1・2階)

() は講演数, - は座長

		A会場	B会場	C会場	D会場
11月20日 (日)	09:30 ~ 12:30	降水システム (15, A101 ~ A115) - 渡邊 明 -	気候システム I (11, B101 ~ B111) - 野原大輔 -	物質循環 I (15, C101 ~ C115) - 菅原 敏 -	大気境界層 ・環境気象 (15, D101 ~ D115) - 林 泰 -
	13:30 ~ 17:00	雲物理 (18, A151 ~ A168) - 岡本 創 -	気候システム II (17, B151 ~ B167) - 野沢 徹 - - 對馬洋子 -	物質循環 II (18, C151 ~ C168) - 久慈 誠 -	気象予報 (15, D151 ~ D165) - 三好建正 - 気象教育 (1, D166) - 三好建正 -
	17:00 ~ 18:00	ポスター・セッション (96, P101 ~ P196)			
11月21日 (月)	09:15 ~ 12:00	熱帯大気 I (14, A201 ~ A214) - 堀之内武 -	スペシャルセッション 「2004年暑夏の原因を 探る」 (9, B201 ~ B209) - 楠 昌司 - - 小林ちあき -	スペシャルセッション 「高所山岳を利用した大 気科学の展望: 富士山 頂を観測拠点に」 (10, C201 ~ C211) - 岩坂泰信 - - 土器屋由紀子 -	スペシャルセッション 「力学・化学・放射過程 を通じた太陽活動の地 球大気に及ぼす影響」 (8, D201 ~ B208) - 廣岡俊彦 -
	13:00 ~ 13:30	山本正野論文賞・堀内賞・奨励賞授与			
	13:40 ~ 15:10	山本正野論文賞・堀内賞記念講演			
	15:20 ~ 17:30	シンポジウム「大規模観測プロジェクトは気象学に何をもたらすか」 司会: 石川裕彦 基調講演: 安成哲三, 吉崎正憲, 三上正男, 深尾昌一郎, 余田成男, 笹野泰弘			
	18:00 ~ 20:00	懇親会			
11月22日 (火)	09:15 ~ 11:30	熱帯大気 II (6, A301 ~ A306) - 吉岡真由美 - 台風 I (5, A307 ~ A311) - 足立アホロ -	気候システム III (8, B301 ~ B308) - 高谷康太郎 -	物質循環 III (9, C301 ~ C309) - 菅田誠治 -	大気力学 I (11, D301 ~ D311) - 中島健介 -
	11:30 ~ 12:30	ポスター・セッション (96, P301 ~ P396)			
	13:30 ~ 17:00	台風 II (17, A351 ~ A367) - 坪木和久 -	気候システム IV (17, B351 ~ B367) - 谷貝 勇 - - 谷田貝亜紀代 -	観測手法 (16, D351 ~ D366) - 柳野 健 -	大気力学 II (9, D351 ~ D359) - 伊賀啓太 - 相互作用 (9, D360 ~ D368) - 山崎 剛 -

発表件数: 465 件 (口頭発表 273, ポスター 192)

口頭発表の講演・質疑時間: 8分と3分

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰 1-1 気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail: org-msj@mri-jma.go.jp) まで。

大会参加費・懇親会費

- ・講演の有無や参加日数に関わらず、大会に参加する場合は規定の大会参加費を支払う必要があります。
- ・郵便振替による前納（会員のみ）または当日会場でお支払い下さい。
- ・大会当日は混雑しますので、極力前納されるようお願いいたします。なお郵便振替用紙は「天気」6月号の末尾に挿入されたものを使い、11月11日（金）までに振り込んで下さい。
- ・金額は以下の表の通りです。

		一般会員	学生会員	非会員
大会参加費	前納	2,000円	1,000円	未設定
	当日	3,000円	2,000円	3,000円
懇親会費	前納	4,500円	2,500円	未設定
	当日	5,500円	3,000円	5,500円

講演の方法

口頭発表

- ・1件当たりの発表時間は、**講演時間8分・質疑時間3分**です。
- ・スペシャルセッションの発表時間については世話人からの指示に従ってください。
- ・講演の際にはPCプロジェクターとOHPが使用できます。
- ・**PCプロジェクターを使用する際は予め以下の点をご了承ください。**
 - －PCプロジェクターの使用を希望する場合は、必ず当該セッション開始前の休憩時間に、当該会場で会場係へその旨を申し出て下さい。
 - －パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - －セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、開始前に会場係に申し出て下さい。
 - －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で、発表順を繰り下げたりOHPによる発表に切り替えさせて頂くことがあります。このため、最低限の発表が出来るだけのOHPシートも用意しておいて下さい。

ポスター発表

- ・ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、**幅0.9m×高さ1.2m程度（A0サイズを縦に貼れる程度）**となっています。
- ・ポスターの掲示の際、**押しピン・テープ類が使用可能**です。これらは**発表者自身で準備**してください。
- ・ポスターの掲示可能時間は以下の通りです。特に**撤去時間については厳守**願います。
 - －**第1日**の発表者は**11月20日9:00～11月21日12:30**
 - －**第3日**の発表者は**11月21日12:30～11月22日14:00**
- ・ポスター会場での機器の使用は講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

託児所のご案内

11月20日～22日の大会期間中は、託児所を「瀧川記念学術交流会館1階小会議室」に設けておりますのでご利用下さい。ご利用される方は、11月11日（金）までに下記の連絡先までTELまたはE-mailでお申し込みください。

連絡先：松村 哲（大会実行委員会事務局・大阪管区气象台）
TEL:06-6949-6321
E-mail:a-matsumura@met.kishou.go.jp

シンポジウム「大規模観測プロジェクトは気象学に何をもたらすか」

日時：大会第2日(11月21日) 15:20～17:30

会場：神戸大学百年記念館六甲ホール

司会：石川裕彦(京都大学防災研究所)

※シンポジウムの聴講は無料です

趣旨

ここ10年ほどの間に、観測を主体としたさまざまな大規模プロジェクトが実施されるようになってきました。GAME「GEWEX アジアモンスーンエネルギー・水循環観測研究」とこれに引き続くCREST等によるエネルギー水循環観測研究、科学技術振興調整費によるADEC「風送ダストの大気中への供給量評価と気候への影響に関する研究」、科学技術振興機構戦略的基礎研究による「メソ対流系の構造と発生・発達メカニズムの解明」、科学研究費によるCPEA「赤道大気上下結合」、などが終了あるいは進行中です。また、総合科学技術会議が決定した「地球観測の推進戦略」に基づき、文部科学省の地球観測システム構築推進プランにより新たな観測計画が開始されようとしています。世界的にはWMOの研究計画としてTHORPEXが提案され、日本でもこれに向けた準備が進んでいます。このような大規模観測プロジェクトにより、何が明らかになり、どんな新しい事実が発見され、それが理論やモデル研究にどのようなインパクトを与えたか、あるいは与えると期待されるのかを、検証したいと思います。

また、これら大規模プロジェクト推進には、予算獲得からコーディネーション、最後には外部評価への対応まで、多大な労力を要するものです。昨今の「競争的資金」時代において、気象学会員が自分のやりたいことの予算を能動的に獲得しようとする場合、何がポイントで、何が学界全体を考えると重要なのか、また大規模観測が気象学会にどんな波及効果を及ぼすかなどを、皆で考える機会になればよいと考えております。

基調講演

- (1) 「アジアモンスーン研究の重要性－GAMEの成果と今後の展望－」

安成哲三(名古屋大学地球水循環研究センター)

- (2) 「大規模気象観測プロジェクトとメソ気象」

吉崎正憲(気象研究所予報研究部)

- (3) 「風送ダストの大気中への供給量評価と気候への影響に関する日中共同研究(ADEC)」

三上正男(気象研究所環境・応用気象研究部)

- (4) 「赤道大気上下結合」

深尾昌一郎(京大大学生存圏研究所)

- (5) 「THORPEX(観測システム研究・予測可能性実験計画)」

余田成男(京都大学大学院理学研究科)

- (6) 「これからの地球観測」

笹野泰弘(国立環境研究所大気圏環境研究領域)

総合討論

スペシャルセッション「2004年暑夏の原因を探る」

日時：大会第2日(11月21日) 09:15～12:00

会場：神戸大学瀧川記念学術交流会館大会議室(大会B会場)

世話人：楠昌司(気象研究所)

趣旨

2004年の夏は1994年以来の暑夏となった。暑夏は、日本を含めた東アジア地域の人間社会に大きな影響を及ぼす。従って、まず2004年暑夏の現象を解析し、さらにその原因を解明することが重要である。そのような研究は、数値モデルによる夏の季節予報の精度向上にもつながるであろう。2003年夏に欧州は熱波に見舞われた。この熱波に人間活動による温暖の寄与が認められるという研究結果もある。従って、2004年暑夏に地球温暖化がどの程度寄与しているかという、一般社会の間にも答えなければならない。さらに、地球が温暖化したときに、2004年暑夏のような夏がどの程度増えるかという定量的研究も必要である。

スペシャルセッション 「高所山岳を利用した大気科学の展望：富士山頂を観測拠点に」

日時：大会第2日(11月21日) 09:15～12:00
会場：神戸大学自然科学総合研究棟1号館大会議室(大会C会場)
世話人：岩坂泰信(金沢大学)，土器屋由紀子(江戸川大学)

趣旨

大気質量のおよそ70%を占める自由対流圏の観測研究は、主として、航空機を利用するものである。しかし、航空機は好気象条件下でしか利用できず、また、連続観測には適していない。その補完として高所山岳の利用が注目されている。富士山頂は、オゾン濃度の日内変動やエロゾルの化学成分濃度などから、年間を通して自由対流圏の要件を満たすと考えられている。2004年10月に「非常駐化」された富士山測候所の跡地の有効活用の一環として、「極地高所研究」の拠点とする案が浮上している。気象観測の合間に富士山測候所の協力を得て降水、エロゾル、微量気体など大気化学観測を続けてきた経験から、施設の利用が非常に有効であり、また、観測研究は長期間続けてこそ意味を持つものであることがわかってきた。そこで、今後の利用形態としてどのような観測が必要になるか、雪氷学、雲物理学、大気電気学、生気象学などの気象学全般にわたる研究を含め、また世界の山岳研究と連携しネットワークを構築することも視野に入れた議論を行うことが急務であると考え、このセッションを計画した。

スペシャルセッション 「力学・化学・放射過程を通じた太陽活動の地球大気に及ぼす影響」

日時：大会第2日(11月21日) 09:15～12:00
会場：神戸大学理学部Z棟多目的室A・B(大会D会場)
世話人：小寺邦彦(気象研究所)，廣岡俊彦(九州大学)

趣旨

多様に変化する太陽活動に対する地球大気の応答については、未だ十分明らかとはなっていない点が多い。太陽活動が地球大気に及ぼす影響の解明は、学問的興味のみならず、社会的要請が大きい気候変動予測の観点からも重要な研究テーマであり、国際的にも「太陽地球系の気候と天気(CAWSES)」国際共同研究計画が2004年から5年間の期間にわたり実施されている。これを機会に、本セッションでは、11年周期よりも短い時間スケールの太陽活動変動に伴う、力学・化学・放射過程を通じた地球大気の応答に関する理論的、観測的研究の現状、並びに今後の研究計画について、幅広い議論を行う。多くの真摯な研究者の参加を期待したい。

研究会のお知らせ

大会期間中とその前後に以下の研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

第25回メソ気象研究会

日時：2005年11月19日(土)(大会前日) 13:30～17:30
場所：神戸大学百年記念館六甲ホール(大会A会場)
テーマ：「雷」
コンピーナー：小林文明(防衛大学校)

内容：

雷現象は250年前のダリバルの放電実験、フランクリンの凧の実験に遡り、その後の電荷分離研究の歴史も長い。雷雲(サンダーストーム)に関しても例えば、「冬季雷」や「夏季関東の雷雲」などはわが国固有の現象として盛んに研究されてきた。また、最近では雷雲雲頂から電離層への放電現象が確認され、メソ対流システムの全体像が電氣的な立場からも次第に明らかにされつつある。このように大気電気学は電荷分離機構から雷雲の全体構造の理解、さらに地圏から大気圏まで含んだ大気電気構造へと学際的な広がりを見せている。一方、落雷は防災面からも重要であり、人的被害、構造物への雷撃、森林火災、コンピュータなど家電製品の被害などさまざまな種類の雷災害が頻発している。そのため雷予測の社会的ニーズも高く、落雷位置情報がより身近なもの

として活用されるようになってきている。25回目を迎えた当研究会で今回初めて「雷」をメインテーマに取り上げることもあり、本研究会ではわが国における大気電気研究の歴史を振り返りながら、雷雲の構造を理解するとともに、最新のトピックスまで含んだ話題を提供したい。また、これから雷を研究しようとする人の一助になれば幸いである。

プログラム：

趣旨説明 小林文明(防衛大学校)

講演

「1969年日本大気電気学会発足当時の日本の雷研究」
菊地勝弘(秋田県立大学)

「雷雲の内部構造」
上田博(名古屋大学地球水循環研究センター)

「雷雲をVHF放射で観る」
河崎善一郎(大阪大学大学院)

「雲解像モデル(JMANHM)をもちいた発雷予測」
林修吾(気象研究所)

「宇宙線・雲・雷のリンクの可能性と超層雷放電が地球大気へ与える化学的インパクト」
佐藤光輝 (理化学研究所)

総合討論

世話人: 坪木和久(名古屋大学地球水循環研究センター),
加藤輝之(気象研究所), 小倉義光(東京大学海洋研究所)

連絡先: 小林文明(防衛大学校)
E-mail: kobayasi@nda.ac.jp

THORPEX 研究連絡会 第2回研究集会

日時: 2005年11月19日(土)(大会前日) 13:00 ~ 17:30

場所: 神戸大学瀧川記念学術交流会館大会議室
(大会B会場)

テーマ: アンサンブル予報とその高度利用

趣旨:

THORPEX では, アンサンブル予報の活用が重要なテーマの一つとして位置づけられている。まず, アンサンブル予報から得られる誤差情報は, 次の予報を行なうためのデータ同化と初期擾乱の作成に用いることができる。また, 付加価値の高い予報プロダクトとして, 防災や経済活動などにも応用が試みられつつある。そこで, 本研究集会では, 様々な分野でアンサンブル予報がどのように活用されているか, 今後どのような活用が考えられるか, 各分野での事例を講演者に紹介していただき, 参加者とともに議論したい。

司会: 余田成男 (京大理)

プログラム:

座長: 榎本剛 (海洋機構地球シミュレータセンター)

- ・三好建正 (気象庁数値予報課)
「アンサンブル・カルマンフィルタ (仮題)」
- ・山口宗彦 (気象庁数値予報課)
「気象庁が運用するアンサンブル予報とその利用」
- ・中北英一 (京大防災研)
「流域降雨予測ならびに洪水予測と気象予測の不確定性情報」

座長: 中澤哲夫 (気象研究所)

- ・山本毅 (みずほ第一フィナンシャルテクノロジー)
「アンサンブル予報の活用法: 企業の気温リスク分析法とリスクヘッジ法」
- ・津坂秩也 (中部電力本店中央給電指令所)
「電力会社における気象予測の影響」
- ・総合討論 (司会: 余田成男)

日本気象学会 THORPEX 研究連絡会世話人:

余田成男, 中澤哲夫, 木本昌秀, 向川均, 榎本剛

連絡先: 榎本剛 (電子メール eno@jamstec.go.jp,
電話 045-778-5867, FAX 045-778-5492)

オゾン研究連絡会

日時: 2005年11月20日(日)(大会第一日)

セッション終了後から2時間程度

場所: 神戸大学自然科学総合研究棟1号館大会議室
(大会C会場)

内容:

今回の前半は, 気塊の年代 (Age of air) に関する話題です。気塊の年代の研究に関わるお二人の方に, これまで得られてきた理論・観測に関する知見から, 現在手掛けている最新の結果まで紹介して頂きます。後半は, WCRP (世界気候研究計画) の主要プロジェクトのひとつ SPARC (成層圏過程とその気候への役割) の最近の動向について, SPARC/SSG メンバーの一人である奈良女子大学の林田先生にお話して頂きます。関心をお持ちの方は是非お集まり下さい。

1. 気塊の年代 ~理論・力学と微量成分観測から~

滝川雅之(地球フロンティア)

「気塊年代スペクトルを用いた CCSR/NIES 大気大循環モデルにおける物質輸送検証実験」

菅原 敏(宮城教育大)

「クライオサンプルを用いて観測された成層圏の CO₂ および SF₆ の濃度とその年代について」

2. SPARC に関する報告

林田 佐智子(奈良女子大)

「WCRP と SPARC の最近の動向について ~ COPES への取り組み ~」

要旨: WCRP の全体会合では WCRP と IGBP の相互乗り入れを促進するプランとして COPES (Coordinated Observation and Prediction of Earth System) を, 強力で推進することを今年3月に決定しました。今後国内の研究コミュニティ, 特に SPARC と IGAC に関係している方たちには大いに関わりがあります。また, 9月末には SPARC/SSG 会合が予定されていますので, オゾン研究会においてこれらの情報を集約してお伝えし, 今後の対応について意見を伺いたいと思います。

世話人: 笠井康子(情報通信研究機構),

川上修司, 河本 望(宇宙航空研究開発機構),

永島達也(国立環境研究所),

庭野将徳(京都大学大学院理学研究科),

村田 功(東北大学大学院環境科学研究科)

連絡先: 村田 功(東北大学大学院環境科学研究科)

TEL: 022-217-5776, FAX: 022-217-5775,

E-mail: murata@pat.geophys.tohoku.ac.jp

第2回地球観測衛星研究連絡会

日時: 2005年11月20日(日)(大会第一日) 18:00 ~ 20:00

場所: 神戸大学理学部 2棟多目的室 A・B (大会D会場)

テーマ: 「エアロゾル」

内容:

今回は, 最近の気候変動予測において重要な鍵を握るエアロゾルをテーマに, 海域および陸域におけるエアロゾルの衛星リモートセンシングのレビューと最新情報に関する話題を提供していただきます。また, エアロゾルの気候への影響という観点から, GCM を用いたシミュレーションとエアロゾル衛星観測データの有効活用について議論したいと考えています。関心をお持ちの方は是非ご参加ください。

話題提供者:

日暮明子(国立環境研究所): 海域のエアロゾル衛星観測

久慈 誠(奈良女子大学): 陸域のエアロゾル衛星観測

竹村俊彦(九州大学応用力学研究所): GCM を用いた

エアロゾル研究と衛星観測

世話人: 中島 孝(宇宙航空研究開発機構),

日暮明子(国立環境研究所),

高橋暢宏(情報通信研究機構),

塩谷雅人(京大大学生存圏研究所),

早坂忠裕(総合地球環境学研究所)

連絡先: 早坂忠裕(総合地球環境学研究所)

TEL: 075-229-6161, FAX: 075-229-6150,

E-mail: hayasaka@chikyu.ac.jp

極域・寒冷域研究連絡会

日時: 2005年11月22日(火)(大会第三日)

17:15 ~ 2時間程度

場所: 神戸大学瀧川記念学術交流会館大会議室
(大会B会場)

話題: オホーツク海から気候変動を探る

「オホーツク海表層水温変動に影響を与える淡水インパクト--海底堆積物に残された過去12万年の記録--」

原田尚美(地球環境観測研究センター)

「オホーツク海氷の数百～数千年周期の急激な拡大・縮小イベント--海底堆積物コアに残された過去12万年の記録--」 坂本竜彦 (地球内部変動研究センター)

「気候モデルによる過去・現在・将来のモンスーンシミュレーション」 鬼頭昭雄 (気象研究所)

今回の極域・寒冷域研究連絡会は、「オホーツク海から気候変動を探る」と題しての講演会を行います。まず、2名の方に、オホーツク海の古海洋・古気候について講演して頂きます。北半球海水域の南限であり、気候変動に敏感な領域であるオホーツク海の海底コアの研究を通じて、過去1万から数万年程度の気候変動を理解し、さらに現在や未来の気候変動の理解へつなげようというものです。古海洋・古気候を理解する上での基本的な説明も交えながらお話して頂く予定です。さらに、気候モデルを用いた過去及び将来のモンスーン活動の研究についての包括的な講演も予定しています。今回の講演会により異分野の研究者との交流の場を設ける事で、アジア域を中心とする気候変動研究の裾野をより広げていきたいと思ひます。

代表：山崎孝治(北海道大学大学院地球環境科学研究科)

世話人：平沢尚彦(国立極地研究所)，中村 尚(東京大学理学部)，浮田甚郎(コロンビア大学)，高田久美子(地球環境フロンティア研究センター)，阿部彩子(東京大学気候システム研究センター)，佐藤 薫(国立極地研究所)，本田明治(地球環境フロンティア研究センター)，齋藤冬樹(東京大学気候システム研究センター)，猪上 淳(地球環境観測研究センター)，高谷康太郎(地球環境フロンティア研究センター)

連絡先：高谷康太郎(地球環境フロンティア研究センター) TEL:045-778-5526, FAX:045-778-5707, E-mail:takaya@jamstec.go.jp

惑星大気研究会

PACK2 (Planetary Atmosphere Colloquium at Kobe)

日時：2005年11月22(火)～24日(木)

タイムテーブル(仮)

11/22(火) 19:00 頃までに集合

11/23(祝) 朝から晩まで

11/24(木) 朝解散

内容：惑星大気に関するいくつかの講演を予定しています。各講演の後にはちょっと長めに時間をとって、少ししつこく議論する場を持ちたいと考えています。

予定されている講演者(50音順，敬称略)

今村剛 (宇宙研)

倉本圭 (北大)

中島健介 (九大)

松田佳久 (東京学芸大)

渡邊誠一郎 (名大)

場所：太山寺 なでしこの湯

〒651-2108 神戸市西区伊川谷町前開 270-1

<http://www.nadeshikonoyu.com/>

神戸市営地下鉄「学園都市」駅よりシャトルバス5分(学会会場(神戸大)から学園都市駅までは約60分)

費用：全日参加 18,000円くらい(含む2泊，朝昼夕食付き)部分参加や日帰り参加も可

申込み〆切(予定)：11月4日(金)

問い合わせ先：研究会の詳細は後日，ymnetなどで回覧する予定です。案内の送付を希望される方は，以下までご連絡ください。

はしもとじょーじ (神戸大) E-mail:george@kobe-u.ac.jp

世話人：山中大学(神戸大)，岩山隆寛(神戸大)，

はしもとじょーじ(神戸大)

講演企画委員会からのお願い

大会参加費の未払いについて

2005年度春季大会において，一部の講演者が大会参加費を支払っていなかったことが判明いたしました。大会運営は大会参加費と多くの会員による献身的な努力の上に成り立っており，今後はこのようなことがないように十分ご注意願ひます。今後参加費の未払いが明らかになった場合には，講演の停止を含めた処置も検討致しますのでご承知おきください。

なお，大会参加費未払いの講演者の約半数は，共著者に会員がいれば講演できるという特例によって認められた非会員による講演者でした。共著者となっている会員の方は，参加費の納入について講演者へ周知・徹底して頂くようよろしく願ひします。

非会員による大会での継続的な講演について

最近，非会員のままで継続して大会での講演を行うケースが少なからず見受けられます。特に教官との共著で講演を行う学生や院生の方が多いようですが，一般の方もおられるようです。大会での講演は気象学会会員としての貴重な権利であり，「共著者に会員がいる場合は非会員の大会での講演を認める」という規定は，あくまでも短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において一時的に講演を行う場合の特例です。これまでお願いしてきましたが，気象学会において継続的に講演を行いたい場合には会員になって頂くように強く望みます。

2006年度春季大会の予告

2006年度春季大会は，2006年5月21日(日)～24日(水)につくば国際会議場で開催される予定です。2006年度春季大会からは，講演申込の電子化や大会参加費の改定などの大幅な変更が予定されています。これらの詳細は「天気」12月号に掲載予定の大会告示に記載される予定です。なお，春季大会の講演申し込み締め切りは2006年2月頃となる予定です。

大会第1日〔11月20日(日)〕 A会場

(~~~~は講演者を表す)

午前(09:30 ~ 12:30)

午後(13:30 ~ 17:00)

降水システム

座長：渡辺 明(福島大理工)

- A101 用具敏郎(鹿児島地方気象台) 甌島ライン(2003年7月18日から21日)の発生と維持のメカニズム—ウインドプロファイラ(WPR)によるアプローチ
- A102 川畑拓矢・瀬古弘(気象研)他4名 雲解像度NHM-4DVARを用いた練馬豪雨事例に関するデータ同化実験
- A103 金田幸恵(AESTO) 東海地方の大雨の発生特性と環境場の関係
- A104 加藤輝之・林修吾(気象研) 梅雨期における積乱雲の潜在的発達高度に関する統計的研究
- A105 張誠忠(名大地球水循環)・上田博(名大地球水循環/IORGC)他2名 Proportion of convective precipitation around the Meiyu front
- A106 耿騷・山田広幸(IORGC)他2名 中国大陸で観測された梅雨前線帯メソ低気圧の形成過程について
- A107 伊藤久徳(九大理) 等温位面渦位を用いた梅雨前線の解析
- A108 渡辺明(福島大理工) レーダー・アメダス解析雨量を用いた福島県の降水特性
- A109 西村建志(山形地方気象台)・角村悟(気象大) 解析雨量データを用いた降水分布の統計的研究
- A110 楠研一・村上正隆(気象研)他5名 ポータブルX-band レーダーを用いた小スケールウェークの初期観測
- A111 中井専人・石坂雅昭(防災科研)他2名 上陸する渦状降雪雲のVARD解析
- A112 岩本勉之・中井専人(防災科研)他2名 新潟県中越地域において大雪時に見られた渦状降雪雲の数値実験
- A113 鈴木菊男・小林文明(防衛大地球)他1名 ガストフロントの微細構造(3)
- A114 佐藤晋介(NICT)・古澤文江(名大地球水循環)他 沖縄偏波降雨レーダー(COBRA)で観測された晴天境界層エコーと積雲対流
- A115 佐々浩司(高知大理) ノンスーパーセル竜巻の走行実験

雲物理

座長：岡本 創(東北大院理)

- A151 村上正隆・折笠成宏(気象研)他5名 MRI 雲生成チャンパーを用いた雲物理実験 Part I: 雲生成チャンパーの概要
- A152 折笠成宏・村上正隆(気象研)他3名 MRI 雲生成チャンパーによる雲物理実験—Part II: 気圧と温度制御の方法および特性—
- A153 斎藤篤思・村上正隆(気象研)他3名 MRI 雲生成チャンパーによる雲物理実験 Part III: 雲粒生成過程について
- A154 田尻拓也・村上正隆(気象研)他3名 MRI 雲生成チャンパーによる雲物理実験 Part IV: 氷晶発生過程について
- A155 橋本明弘(AESTO)・村上正隆(気象研)他4名 MRI 雲生成チャンパーによる雲物理実験 Part V: 雲微物理モデルによるチャンパー性能の考察
- A156 橋本明弘(AESTO)・村上正隆(気象研)他3名 メソスケールモデルにおける氷飽和調節の影響
- A157 鈴木健太郎・中島映至(東大気候システム)他1名 衛星観測で得られた水雲の光学特性のピン法モデルによる解釈
- A158 扇子みなみ・岡本創(東北大院理)他2名 アクティブセンサーと雲微物理パーセルモデルを用いた雲生成過程のシミュレーション
- A159 永戸久喜・青梨和正(気象研)他1名 衛星搭載マイクロ波放射計データ同化に向けた雲解像モデルの降水物質予測特性改善の検討
- A160 古津年章・下舞雪志(島根大)他6名 TRMM 降雨レーダーによる雨滴粒径分布パラメータの推定
- A161 河本和明・早坂忠裕(地球研)他1名 東アジアにおける人為起源エアロゾル間接効果
- A162 中村晃三(FRCGC)・藤吉康志(FRCGC/北大低温研)他2名 DYCOMS-II で観測された境界層雲の数値実験(GCSS 境界層雲 WG CASE9 の数値モデル相互比較実験と関連して)
- A163 佐藤可織・岡本創(東北大院理) 雲レーダより抽出された氷晶雲微物理特性に関して
- A164 岡本創・大竹慎一(東北大院理)他9名 熱帯・中緯度・極域における雲量と雲微物理量の解析
- A165 植松明久・山本真之(京大生存研)他2名 ミリ波ドップラーレーダーで観測されたシア不安定に伴う霧のロール構造
- A166 奥田智洋・遠峰菊郎(防衛大地球)他2名 青森県三沢飛行場における霧の粒径観測
- A167 酒井哲(名大院環境)・折笠成宏(気象研)他7名 ラマンライダーによる上層雲の相状態と氷晶方位の観測
- A168 大野裕二・堀江宏昭(NICT)他1名 雲レーダで観測された非降水粒子による境界層エコーについて(2)

大会第1日 [11月20日(日)] B会場

(〰は講演者を表す)

午前(09:30 ~ 12:30)

午後(13:30 ~ 17:00)

気候システム I

座長：野原大輔(気象研/JST)

- B101 荒井美紀・木本昌秀(東大気候システム) 夏季東アジア域の天候の年々変動と将来予測
- B102 鈴木恒明・二宮洗三(FRCGC)他2名 夏季アジア域の降水シミュレーションにおける対流抑制の効果
- B103 上口賢治(気象研) 20世紀の降水エクストリームインデックスの経年変化について
- B104 江守正多(環境研/FRCGC)・Simon Brown(ハドレーセンター) 温暖化による平均降水量および極端に強い降水量の力学的・熱力学的変化
- B105 仲江川敏之・保坂征宏(気象研) 長期 AGCM アンサンブル実験に基づく熱帯アジア河川流量の潜在的季節予測可能性
- B106 野原大輔(気象研/JST)・鬼頭昭雄(気象研)他3名 温暖化に伴う河川の洪水・渇水頻度の評価
- B107 野沢徹・永島達也(環境研)他2名 20世紀前半の気温変動に対する自然起源強制力の寄与推定 (I)
- B108 塩籠秀夫・永島達也(環境研)他2名 20世紀前半の気温変動に対する自然起源強制力の寄与推定 (II)
- B109 長谷川聡(FRCGC)・江守正多(環境研/FRCGC) 大気-海洋結合/非結合 GCM 実験における熱帯低気圧と降水
- B110 塩籠秀夫(環境研)・渡部雅浩(北大院地球環境)他2名 20世紀後半における decadal ENSO に対する外部強制力変動の影響
- B111 酒井孝太郎・大垣内るみ(FRCGC)他2名 大気海洋結合モデル MIROC による PMIP2 LGM シミュレーションで見られる北大西洋の数十年規模の振動

気候システム II

座長：野沢 徹(環境研)

- B151 小木雅世(FRCGC)・山崎孝治(北大院地球環境)他2名 地球温暖化した場合の北極振動について
- B152 坂井大作・伊藤久徳(九大院理)他1名 偏差場の気候変動-地球温暖化との関係一
- B153 本井達夫・鬼頭昭雄(気象研) 地球温暖化による海面淡水フラックスと海洋塩分の変化
- B154 西澤誠也・余田成男(京大院理)他1名 有限長データにおける見かけのトレンドの分布関数とトレンドの検出可能性
- B155 大淵濟(地球シミュレータ) 定常気候フィードバック解析のもう一つの表現法
- B156 関口美保(東京海洋大海洋工)・中島映至(東大気候システム) 新放射コードの開発 その3-気体吸収過程の変更による大循環モデルへの影響評価
- B157 村上茂教・酒井孝太郎(FRCGC)他2名 氷期気候系における南北エネルギーバランス
- B158 竹村俊彦(九大応力研)・中島映至(東大気候システム)他2名 フィードバックを含めたエアロゾルの効果による雲・降水変化の考察
- B159 永島達也・塩籠秀夫(環境研)他4名 20世紀中盤の地表気温変化に対する炭素性エアロゾル増加の影響
- 座長：對馬洋子(FRCGC)
- B160 田中今日子(名大院環境)・山本哲生(北大低温研)他2名 熱帯域循環系の雲の解析的モデル
- B161 望月崇・美山透(FRCGC)他1名 大気海洋結合大循環モデルへの下層雲スキームの導入
- B162 三浦裕亮・富田浩文(FRCGC)他3名 全球雲解像モデルを用いた温暖化想定実験
- B163 對馬洋子(FRCGC)・江守正多(FRCGC/環境研)他2名 GCM の雲水量の1×CO₂時および2×CO₂時における分布のモデル間相互比較
- B164 馬淵和雄(気象研)・木田秀次(京大院理) 陸面植生モデル BAIM2 を組み込んだ全球気候モデルによる炭素循環数値実験
- B165 河宮未知生・吉川知里(FRCGC)他 地球環境変化予測のための地球システム統合モデルの開発
- B166 木村富士男(筑波大院生命環境)・鬼頭昭雄(気象研) 温暖化によるトルコにおける降水量の変化-領域モデルによる MRI-CGCM2 のダウンスケール
- B167 穂積祐・植田洋匡(酸性雨研究センター)他2名 海洋性砂漠の緑化維持に関する水収支評価

大会第1日 [11月20日(日)] C会場

(~~~~)は講演者を表す。[OHP]はOHPを使用する講演を示す。)

午前(09:30 ~ 12:30)

午後(13:30 ~ 17:00)

物質循環 I

座長：菅原 敏(宮城教育大)

- C101 白井知子・横内陽子(環境研)他 東京都心部における非メタン炭化水素類の濃度変化および放出源寄与率の季節変化
- C102 岩嶋樹也(京大防災研)・森山茂(日大院総合科学)他 1名 都市とその周辺における大気メタン濃度差(II) -メタン発生量と人間活動度：国内・外国の諸都市についての比較- [OHP]
- C103 栗田直幸(IORGC) 降水の同位体比から得られる陸面過程情報
- C104 池田健二・檜山哲成(名大地球水循環)他 2名 メソスケール降水システム内における降雨の安定同位体比変動に関する観測的研究
- C105 薄生稔・前田高尚(産総研)他 7名 熱帯林生態系における炭素循環のパラメタリゼーション(その3)
- C106 近藤裕昭・三枝信子(産総研)他 3名 複雑地形上にある飛騨高山観測サイトのCO₂データの特徴について
- C107 高村近子・中澤高清(東北大院理)他 4名 森林生態系における二酸化炭素の酸素同位体比の変動について
- C108 村山昌平・三枝信子(産総研)他 7名 冷温帯落葉広葉樹林における大気中CO₂濃度と安定同位体比の長期観測
- C109 佐伯田鶴(地球研)・菅原敏(宮城教育大)他 10名 中国における温室効果気体の観測
- C110 菅原敏(宮城教育大)・青木周司(東北大院理)他 6名 日本上空の成層圏における二酸化炭素濃度の長期変動と対流圏成層圏間の非平衡について
- C111 横内陽子・斉藤拓也(環境研)他 4名 波照間島におけるフッ素系温室効果気体の連続観測
- C112 Manish, Naia・Alexy Yaremchuk(環境研)他 3名 Long-term simulation of CO₂: Dynamical influences on column averaged CO₂
- C113 弓本桂也(九大総理工)・鶴野伊津志(九大応力研) 4 次元変分法を用いたデータ同化手法の物質輸送モデルへの導入
- C114 田中泰宙・千葉長(気象研)他 2名 全球大気輸送モデルを用いた⁸¹Krの数値シミュレーション〜全球大気輸送モデルの検証と将来予測実験〜
- C115 西森基貴・小原裕三(農環研)他 1名 残留性有機化学物質の全球輸送モデルの開発〜大気・海洋系による南北輸送〜

物質循環 II

座長：久慈 誠(奈良女子大理)

- C151 大木望(京大院工)・後藤和夫(京大院エネルギー科学)他 2名 水平方向の放射輝度測定に基づく大気境界層内におけるエアロゾルの粒径分布の推定
- C152 村山利幸・関口美保(東京海洋大海洋工)他 1名 多波長ラマンライダーによる東京における下部対流圏エアロゾルの光学特性
- C153 宮川拓真・竹川暢之(東大先端研)他 7名 郊外域に輸送されたPM₁エアロゾルの光化学酸化
- C154 茂木信宏・近藤豊(東大先端研)他 名古屋近海上空における黒色炭素エアロゾルの粒径、混合状態のラグランジュ解析
- C155 桑田幹哲・近藤豊(東大先端研)他 5名 被覆による実大気中黒色炭素状物質の雲凝結核能変化
- C156 長田和雄・西田千春(名大院環境)他 3名 乗鞍岳と立山における大気エアロゾル粒子化学成分の季節変化
- C157 芝定孝・平田雄志(大阪大院基礎工)他 1名 潮解湿度帯域付近の低飽和比における相転位とCCNの雲粒凝結特性
- C158 柴田隆(名大院環境)・Saipul Hamdi(LAPAN)他 5名 ライダーと露点ゾンデによる熱帯圏界面層の巻雲および湿度の同時観測
- C159 亀井秋秀・杉本伸夫(環境研)他 3名 海洋地球研究船「みらい」搭載ライダーで観測された火山起源エアロゾル層
- C160 久慈誠・近藤優美(奈良女子大理)他 3名 船上及び衛星観測による、秋季日本近海におけるヘイズの特徴
- C161 張代洲(熊本県立大環境共生)・岩坂泰信(金沢大自然計測応用センター) 海塩成分の混合による黄砂粒子のサイズ変化とその重要性
- C162 荒生公雄・石坂丞二(長崎大)他 5名 長崎地方における2005年春の黄砂現象の特徴
- C163 竹見哲也(東工大院総合理工) 砂漠域における境界層対流とダスト輸送の格子解像度依存性
- C164 青木二真(富山大)・早坂忠裕(地球研)他 4名 ABC/EAREX2005 観測期間中に得られたエアロゾルの光学的特性
- C165 鶴田治雄(東大気候システム)・須藤重人(農環研)他 13名 ABC-EAREX05 期間中における済州島、福江島、奄美大島での大気エアロゾル中のEC/OC濃度
- C166 北和之・瀬戸崇史(茨城大理)他 5名 東アジアから輸送された汚染気塊中における微小エアロゾル無機成分の変化
- C167 竹内延夫(千葉大 CEReS)・Turenjai Doolgindachbaporn(Kohn Kean Univ.)他 3名 東タイにおける雨季エアロゾルの化学成分の特性
- C168 長田和雄・西田千春(名大院環境)他 6名 南極・昭和基地におけるエアロゾル粒径分布の季節変化

大会第1日〔11月20日(日)〕 D会場

(〰は講演者を表す)

午前(09:30 ~ 12:30)

午後(13:30 ~ 17:00)

大気境界層・環境気象

座長：林 泰一(京大防災研)

- D101 湯本道明・筆保弘徳(防災科研)他1名 静岡県
の台風災害特性：静岡県に上陸・接近した台風の統計
- D102 林泰一(京大防災研)・手嶋あかり(京大理)他3名
パングラデシュの伝染病の発生パターンと気象環境
- D103 大塚清敏(大林組) 台風0423号による津山盆地の
強風被害と広戸風との関連について
- D104 杉浦幸之助(IORGC)・青木輝夫(気象研)他4名 札幌
における吹雪時の長波放射特性に関する野外観測
- D105 川端一史・長谷川英尚(環境科学技術研)他3名 青森
県六ヶ所村における霧水中の水溶性イオン濃度の時系列変動
- D106 松田和秀・羽太宏之(明星大理工) 日本海沿岸に
おける黄砂の環境影響
- D107 山下和也(北大院地球環境)・藤吉康志(北大低温研)
大気境界層の組織的な対流構造の観測
- D108 林健太郎・宮田明(農環研) 摩擦速度のパラメタリ
ゼーションが乾性沈着速度の推定値に及ぼす影響
- D109 菅原広史(防衛大)・余偉明(東北大)他2名 都市内
緑地からの冷気流出-市街地での到達距離と鉛直構造-
- D110 坪田幸政(桜美林大)・佐藤雄一(みずほコーポレー
ト銀行)他1名 産業道路から首都高速横羽線への
大型車誘導効果の評価-移動観測と道路環境モデリング-
- D111 山崎仁太郎・木田秀次(京大院理) 阪奈地域の局地
風循環に対する生駒山系の存在の力学的・熱的効果
- D112 竹見哲也(東工大院総合理工)・有光剛(関西電力)他
3名 大阪都市圏における都市化が局地気象に及ぼす影響
- D113 村山泰啓・熊谷博(NICT)他8名 都市域(関東東
城)大気環境立体観測プロジェクト
- D114 木村富士男・井上忠雄(筑波大院生命環境)他1名
都市上空に出現する対流雲の簡易都市気象モデルによる再現
- D115 余偉明(東北大院理) Development and applications of
an urban meteorological Numerical model in Cartesian
coordinate

気象予報

座長：三好建正(気象庁数値予報)

- D151 吉村裕正(気象研) 単調なセミラグランジュ移流ス
キームの導入による成層圏の水蒸気量の改善
- D152 彭新東・高橋桂子(地球シミュレータ)他1名 球面
上質量と運動量の同一セミ・ラグランジュ移流
- D153 杉正人・仲江川敏之(気象研) マルチモデルアンサン
プル法による潜在的予測可能性の推定(2)
- D154 松枝未遠(筑波大院生命環境)・経田正幸(気象庁数
値予報)他1名 JMA/NCEP マルチモデルアンサン
プル予報の構築
- D155 三好建正(気象庁数値予報)・Eugenia Kalnay(メリー
ランド大) 全球プリミティブ方程式モデルを使っ
たアンサンブル・カルマンフィルタ実験
- D156 三好建正(気象庁数値予報)・Eugenia Kalnay(メリー
ランド大) Breeding 法のアンサンブル摂動生成に
おける Stochastic seeding の効果
- D157 田中博(筑波大院生命環境/FRCGC)・松枝未遠(筑
波大院生命環境) 順圧大気循環モデルを用いた
カルマンフィルタの実験
- D158 斎藤和雄(気象研)・経田正幸(気象庁数値予報)他1
名 メソモデルによる全球アンサンブル予報ダウ
ンスケール実験(その2)
- D159 荒波恒平・山田芳則(気象庁数値予報)他6名 現業
非静力学メソ数値予報モデルの5km化について
- D160 大泉三津夫(気象研) 気象庁非静力学モデルへの陸
面モデルの実装と予備実験
- D161 本田有機・西嶋信(気象庁数値予報)他2名 -
JNoVA 開発報告(第4報)- 2004年福井豪雨の事
例にみる解析システムの違いが予報に与える影響
について
- D162 田宮久一郎(気象研) 変分法データ同化におけるベ
ナルディ項の形と収束の速さ(続)
- D163 青梨和正・永戸久喜(気象研) 衛星搭載マイクロ波
放射計データの非静力学解像モデルへの同化法の
開発(その3)
- D164 目下博幸(電中研)・Andrew Crook(NCAR)他2名
非静力学モデル WRF と MM5 の比較解析-平成16
年新潟・福島豪雨のシミュレーション-
- D165 坪田幸政(桜美林大)・小笠原麻喜(日本航空)他2名
メソスケール気象モデルのルーチン運用とその教
材化(3)

気象教育

座長：三好建正(気象庁数値予報)

- D166 古田英文(気象情報教育研究会) 小・中・高校用気
象デジタル教材の開発

大会第1日 [11月20日(日)] 17:00 ~ 18:00 ポスターセッション

(~~~~は講演者を表す)

- P101 横島徳大・江守正多(環境研)他4名 気候変化における放射フィードバック過程の定量化
- P102 村上和隆・佐々井高博(名大院環境)他1名 南北一次元エネルギー・物質循環結合モデルによる地球システムの環境変動解析
- P103 桑子研・植田宏昭(筑波大)他2名 地球温暖化に伴うエルニーニョ現象の変調
- P104 西澤慶一・北端秀行(電中研)他3名 21世紀における地域的な気候湿度変化の予測
- P105 堀正岳(気象研)・植田宏昭(筑波大) 地球温暖化シナリオ実験下における冬季東アジアモンスーンの変調
- P106 飯泉仁之直・林陽生(筑波大院生命環境)他1名 領域気候モデルによる日本周辺の疑似温暖化実験と水稲収量変動
- P107 石丸和樹・山崎孝治(北大院地球環境) 日本の気温と降水量の月別 EOF 解析～主要モードと大気場、海面水温場との関係～
- P108 田少奮(日大文理) モンゴルの暖候期降水量の経年変動とその予測可能性
- P109 市川裕樹(名大院環境)・安成哲三(名大地球水循環) ニューギニア島における対流・降水活動の季節内変動に伴う日周変化変動
- P110 鈴木順子・塩谷雅人(京大生存研) ERA-40 データをもちいた赤道対流圏界面付近にみられるケルビン波の時空間分布とその要因
- P111 井上知栄・松本淳(東大院理) インドシナ半島における夏季降水量の経年変化および大気場との関係
- P112 東博紀・松浦知徳(防災科研) 日本における降水特性の経年変化と熱帯太平洋における海面水温変動
- P113 名倉元樹(IORGC)・根田昌典(京大院理) インド洋における年々変動に伴う海面水温偏差の季節発展とエルニーニョ・南方振動の関係
- P114 V.S. Prasad・林泰一(京大防災研) Advancement of the Indian summer monsoon.
- P115 大庭雅道・植田宏昭(筑波大院生命環境) 西太平洋における海面水温偏差の東西勾配と対流活動の変動
- P116 宇田川佑介(東海大)・立花義裕(FRCGC/東海大) 南大洋海水量偏差は常に東進するのか?
- P117 大竹博一・岡本創(東北大院理)他4名 2波長偏光ライダーと赤外放射温度計データによる熱帯における巻雲微物理特性の導出
- P118 大朝由美子(神戸大院自然科学)・菊地信宏(NICT) 地球大気化学進化と赤外放射: 太陽光度の変動と居住可能性について
- P119 櫻井俊光(北大院環境科学)・大野浩(北大低温研)他1名 南極 Dome Fuji 氷コアから得られたメタンスルホン酸塩の生成過程
- P120 武田重夫(気象研) Hill の球形渦類似の流れパターンによるシンプルな対流モデルの検討 (その3; 水蒸気の相変化による効果の検討)
- P121 金久博忠(気象大) Eady 模型の成長擾乱
- P122 杉本憲彦(名大工)・石岡圭一(京大理) f 平面浅水系における非定常なジェットからの重力波放射について(2) - パラメータスイープ実験 -
- P123 小高正嗣・北守太一(北大理)他5名 火星大気湿潤対流のための非静力学モデルの定式化
- P124 光田千紘(北大理)・横島徳大(環境研)他1名 二酸化炭素氷雲の散乱温室効果による古火星気候の温暖化
- P125 城戸敦著(九大総理工)・和方吉信(九大応力研) 金星大気大循環における多重解再現への試み
- P126 宮崎和幸・岩崎俊樹(東北大院理) 大気組成から算出される拡散係数の物質依存性と共通性
- P127 原伸樹・近藤豊(東大先端研)他6名 UV 放射における対流圏エアロゾルの影響についての研究～地上観測の結果から～
- P128 田中創・林健次(日本気象協会)他1名 総合数値予測システム SYNPOS 予測モデルへの部分凝結過程の導入
- P129 真野裕三・石元裕史(気象研)他1名 MODIS の 1.38 μm チャネルによる薄い巻雲の検出
- P130 藤枝鋼・深堀正志(気象研)他2名 低温下における CH₄ の ν_2 帯吸収線強度と半値半幅の測定
- P131 太西将徳・酒井敏(京大人環) 晴天時全天輝度分布と大気ダストに関する研究
- P132 吉田孝生・横田達也(環境研)他1名 巻雲存在下における CO₂ 気柱量推定アルゴリズムの検討～その1 放射伝達コードの改良、及び巻雲物理量の推定～
- P133 徐健青(FRCGC)・浅沼順(筑波大)他1名 パン蒸発計蒸発量の種類と長期変動について
- P134 鈴木智恵子(流山北高)・中屋耕(電中研/環境科学研究所)他3名 森林上における領域平均ゼロ面変位の季節変化
- P135 安田延壽(東北大院理) 大気境界層の相似則と大気境界層・接地気層の厚さ(2)
- P136 猪上淳・菊地隆(IORGC)他2名 海面面の状態変化に伴う短波放射の変動 - 北極海多年氷設置型漂流ブイ観測 -
- P137 篠田太郎・坪木和久(名大地球水循環)他2名 太平洋高気圧下の大気境界層の構造に関する数値シミュレーション
- P138 佐々木太一(IORGC)・吉兼隆生(FRCGC) インドシナ半島中央部、バンコク周辺平野部における夜間強風発生のメカニズム
- P139 貞松宏和(静岡大気情報) 三ヶ日町の高密度気象観測網と町民意識
- P140 千葉長・栗田進(気象研)他2名 2005年6月25日と28日の関東平野における真夏日の違い(数値モデルを用いた再現実験)
- P141 久田由紀子・松永信博(九大院総理工)他1名 海風による都市高温化の緩和効果
- P142 佐藤昇(大阪府教育センター) 気象学習のためのヒートアイランド観測とそのデジタル教材化
- P143 出口清児・近藤豊(東大先端研)他3名 関東域における EC と CO の濃度変動
- P144 福田真人・近藤豊(東大先端研)他5名 都市域における窒素酸化物の酸化・除去過程に関する研究
- P145 出生真・柴田清孝(気象研) 全球化学輸送モデルにおける中緯度成層圏・対流圏物質交換の再現精度の検証
- P146 松本篤・岩坂泰信(金沢大)他10名 酸性ガスの取り込みに伴う鉱物エアロゾルの物理・化学的変質
- P147 山田丸・岩坂泰信(金沢大)他10名 黄砂発生源上空で採集した鉱物粒子の硫酸酸化物による変質の程度
- P148 藤田慎一・中屋耕(電中研) 北佐久の落葉広葉樹林におけるオゾン濃度の鉛直分布と季節変化
- P149 中村育代・小池 真(東大理)他7名 済州島における雲凝結核濃度変動要因

- P150 古野朗子(原研)・山澤弘実(名大)他 1 名 放出源推定手法の開発
- P151 直江寛明・柴田清孝(気象研)他 1 名 気象研究所対流圏エーロゾルモデルの開発—大気硫黄サイクル—
- P152 J. Griesfeller・A. Griesfeller(環境研)他 4 名 Comparison of retrieval code results of ground-based FTIR measurements at Kiruna, Sweden
- P153 江口菜穂(環境研) 夏季アジアモンスーンにともなう対流圏界面付近の水蒸気変動について
- P154 高橋けんし・竹谷文一(名大 STE 研)他 2 名 青色および青紫色レーザーを用いる大気環境中の NO₂ 計測器の開発研究
- P155 平木康隆(東北大院理)・笠井康子(NICT)他 2 名 スプライト放電による窒素酸化物の生成に関して
- P156 内田敏(東京理科大)・藤田慎一(電中研)他 東アジアにおける酸の総沈着量の推定
- P157 太田絵美・瓜田直美(奈良女子大理)他 2 名 GOME のデータを用いた対流圏 NO₂ 分布の解析—発生源からの輸送に着目して—
- P158 井上豊志郎(気象研) Pt. Reyes (カリフォルニア州)における下層雲の特徴とラジオゾンデデータの対応
- P159 岩崎杉紀(防衛大)・圓山憲一(防災科研)他 5 名 Optical Particle Counter によって観測された Subvisual Cirrus Clouds に対するライダ観測の感度の考察
- P160 菊地信行(JAXA/EORC)・久慈誠(奈良女子大) GLI 可降水量プロダクトの検証
- P161 小司慎教(気象研) GPS 準リアルタイム解析実験
- P162 Nanda, B., Adhikari(NICT)・花土弘(JAXA)他 4 名 Implication of Observed Vertical Profile of Drop Size Spectra in the Study of Dual-Frequency Radar Rain Retrievals
- P163 前坂剛・真木雅之(防災科研)他 3 名 X バンドマルチパラメータレーダにおけるリアルタイム速度折り返し補正処理の検証
- P164 木田智史・重尚一(大阪府立大院工)他 1 名 TRMM 降雨レーダとマイクロ波放射計によって判定された降雨域の比較
- P165 久保田拓志(JST/大阪府立大)・重尚一(大阪府立大)他 4 名 マイクロ波放射計データによる全球降水マップ(GSMaP)の作成と評価
- P166 小林隆久(気象研) 衛星搭載ライダーによる雲・エーロゾルの観測
- P167 野田暁・岩崎俊樹(東北大院理)他 1 名 下層雲のパラメタリゼーションスキームの開発～サブグリッドスケールの湿度分散の改良～
- P168 三隅良平(防災科研)・村上正隆(気象研)他 6 名 3 つの独立変数をもつ降雪粒子モデル
- P169 出世ゆかり・中川勝広(NICT)他 3 名 降水の特徴と COBRA 偏波パラメータの 3 次元特性
- P170 別所康太郎・中澤哲夫(気象研)他 6 名 Baiu Hunter 2005 における無人機による気象観測
- P171 宮川学・岩崎俊樹(東北大院理)他 1 名 DYCOMS-II 観測期間中に発生したカリフォルニア沖層積雲の数値実験
- P172 松下拓樹(工学気象研/千葉大院)・尾関俊浩(北海道教育大)他 1 名 着氷性の雨と雨水現象の発生域の推定—2004 年 2 月 22～23 日、北海道・岩見沢の事例—
- P173 岩崎博之(群馬大)・佐藤友徳(JST)他 4 名 モンゴルにおける積乱雲活動と可降水量の日変化の関係について
- P174 川瀬宏明・木村富士男(筑波大院生命環境)他 1 名 夏季のモンゴルに降水をもたらす擾乱
- P175 大橋喜隆(富山大院理工)・川村隆一(富山大理) 中部日本夏季静穏日における GPS 可降水量の日変化
- P176 森岳史(日大院地球情報) チベット高気圧の気圧系推移が周辺大気・海洋から受ける影響—熱帯東風ジェットとエルニーニョの関係に着目して—
- P177 寺尾徹(大阪学院大情報)・村田文絵(地球研)他 1 名 バングラデシュにおけるプレモンスーン期およびモンスーン期の降水の特徴
- P178 Zainul Akramin・古津年章(島根大)他 3 名 東南アジアにおける雨滴粒径分布の変動特性
- P179 張誠忠(名大地球水循環)・上田博(名大地球水循環/IORGC)他 3 名 Formation of lower convection to the south of the Meiyu front over the east part of continental China
- P180 寺田登与徳・坪木和久(名大地球水循環) 高湿潤場において低山岳の風下に形成される線状降水帯の形成メカニズム—甌島ラインを例として—
- P181 東邦昭(神戸大自然)・山中大学(神戸大自然/IORGC)他 1 名 京阪神地域における発達した線状積雲対流雲群の事例解析
- P182 瀬古弘(気象研)・熊原義正(大阪管区気象台)他 大阪湾周辺から伸びる線状降水帯の発達とその環境(その 1)
- P183 山内洋・鈴木修(気象研)他 5 名 2005 年 8 月 8 日つくばで突風と記録的強雨をもたらした雷雨
- P184 高谷美正・鈴木修(気象研) 00Z の高層データから日中の雷雨を予測する新しい試み
- P185 門倉真二・加藤央之(電中研) モデル MMS と統計的手法による風速予測の急変化の応答
- P186 加藤輝之・吉崎正憲(気象研) 温位エマグラムを用いた相当温位・CAPE の算出方法
- P187 若月泰孝(AESTO)・吉崎正憲(気象研)他 3 名 非静力学気候モデルによる豪雨の再現性の検証
- P188 大関誠・國井勝(気象研)他 1 名 気象庁非静力学モデルに対する特異ベクトルの計算(序報)
- P189 深尾一仁・田中章(岐阜大工)他 3 名 岐阜大学の予報業務の開始について
- P190 隈部智晴(京大院理)・林泰一(京大防災研) 台風 0314 号と台風 0418 号の二重眼について
- P191 浅田浩之・大石哲(山梨大院医学工学総合教育)他 1 名 高性能偏波レーダを用いた台風の発生・発達メカニズムに関する研究
- P192 板垣真資(日大院地球情報) 東日本を通過した台風 0206 号、0221 号の雨風分布の特徴
- P193 鎌倉和夫・峯松宏明(高松地方気象台)他 7 名 数値モデルを用いての高潮の再現について(2004 年台風第 16 号での瀬戸内海の地形特性による影響)
- P194 広沢学(日大院地球情報) 東アジアの春から夏に発生した寒冷渦に関する総観気候学的研究
- P195 関隆則(日本気象士会)・上條賢一(東洋大院生命科学) 夏季における 500hPa 等圧面高度のフラクタル性
- P196 時長宏樹(IORGC)・谷本陽一(北大院地球環境)他 1 名 Brazil-Malvinas Confluence における海面水温分布に対する下層大気循環の応答

大会第2日 [11月21日(月)] 09:15 ~ 12:00

(~~~~は講演者を表す。[OHP]はOHPを使用する講演を示す。)

A 会場

熱帯大気 I

座長：堀之内 武(京大生存研)

- A201 城岡竜一・茂木耕作(IORGC)他 15 名 パラオ周辺域で実施したデュアルドップラーレーダーと航空機を用いた観測の概要 - PALAU2005 集中観測 -
- A202 久保田尚之・城岡竜一(IORGC)他 17 名 パラオ周辺域の降水雲の出現特性
- A203 牛山朋来・城岡竜一(IORGC)他 12 名 PALAU2004 で観測されたレーダーエコーの日変化とその大気湿潤化に対する役割
- A204 中田隆・城岡竜一(IORGC)他 4 名 熱帯西部太平洋域における海面熱フラックスの統計的な特徴
- A205 佐藤尚毅・城岡竜一(IORGC)他 10 名 西部北太平洋上での大規模な対流システムの周辺における水蒸気の鉛直分布
- A206 佐藤尚毅・城岡竜一(IORGC)他 10 名 上層寒冷低気圧の進入に伴う熱帯上部対流圏における湿潤層の起源
- A207 安永数明・城岡竜一(IORGC)他 12 名 パラオ周辺域で実施した航空機観測から得られた水蒸気の南北分布とその放射加熱率
- A208 郷原健・上田博(名大地球水循環)他 6 名 PALAU2005 で観測されたクラウドクラスタの内部構造
- A209 堀之内武(京大生存研) スマトラおよびその近海における積雲対流と重力波の数値実験-対流の日変化-
- A210 米山邦夫・勝俣昌己(IORGC)他 2 名 インド洋における「みらい」観測研究航海 MISMO について
- A211 西憲敬(京大院理)・山本真之(京大生存研)他 3 名 赤道大気レーダーおよびライダーによる熱帯域アンビル内および周辺の鉛直流観測
- A212 庭野将徳・余田成男(京大院理)他 2 名 熱帯対流圏界面域の下降流層と水蒸気輸送
- A213 大塚成徳・余田成男(京大院理) 熱帯対流圏中層の水平層状構造に関する数値実験
- A214 中島健介(九大理) 惑星規模の「対流不安定」の直接数値計算(2)

B 会場

スペシャルセッション「2004年暑夏の原因を探る」

座長：楠 昌司(気象研)

- B201 小林ちあき(気象庁気候情報) 2004年夏の循環場の特徴
- B202 原田やよい(気象庁気候情報)・遠藤洋和(仙台管区気象台)他 1 名 2004年7月に猛暑をもたらした高気圧の成因 (第2報)
- B203 遠藤洋和(仙台管区気象台)・原田やよい(気象庁気候情報) 熱帯の対流活動と夏の循環場・北日本の気温
- B204 小笠原拓也(富山大理工)・川村隆一(富山大理) 季節内変動および年々変動成分からみた遠隔伝播パターンの励起・伝播プロセスの特性と日本の夏季天候への影響
- B205 永野良紀(日大院地球情報)・山川修治(日大文理) チベット高気圧が2004年夏季の天候にもたらした影響

座長：小林ちあき(気象庁気候情報)

- B206 植田宏昭・堀正岳(筑波大)他 1 名 広域アジアモンスーンと日本の気候変動を結ぶもの
- B207 楠昌司(気象研) 日本における暑夏の地上気温の再現期間
- B208 榎本剛・大淵済(地球シミュレータ) 2004年7月の1か月アンサンブル予測実験
- B209 正村史朗(総合科学研) 半世紀前から2004年の暑夏を予測、2006年までは暑夏傾向、暑夏冷夏は平年の季節推移の加速遅延 [OHP]

大会第2日 [11月21日(月)] 09:15 ~ 12:00

(~~~~は講演者を表す)

C 会場

スペシャルセッション「高所山岳を利用した大気科学の展望：富士山頂を観測拠点に」

座長：岩坂泰信(金沢大)

- C201 中澤高清(東北大院理) 富士山頂における二酸化炭素濃度の観測
- C202 岩井邦中(信州大教育) 富士山頂における気圧と気温の日変化
- C203 五十嵐康人・澤庸介(気象研)他 4 名 富士山頂で観測された SO₂
- C204 兼保直樹(産総研)・五十嵐康人(気象研)他 1 名 富士山頂と山麓(1300m msl.)における black carbon エアロゾルの同時観測
- C205 加藤広海・宮地和歌(東京農工大院農学教育)他 3 名 富士山で観測された大気硫化カルボニルの鉛直分布 - 2002 ~ 2005 年 -
- C206 三浦和彦(東京理科大理)・兼保直樹(産総研)他 2 名 富士山麓で観測したエアロゾルの鉛直分布

座長：土器屋由紀子(江戸川大)

- C207 小林拓・吉村英俊(山梨大)他 5 名 黄砂飛来時の非水溶性粒子の粒径分布および吸収特性
- C208 西田千春・長田和雄(名大院環境)他 2 名 大気境界層の上端における粒子生成
- C209 梶山史郎・高見昭憲(環境研)他 3 名 夏季~秋季の日光白根山におけるオゾンの観測 (2002 年と 2004 年の比較)
- C210 鈴木啓助・田中基樹(信州大理)他 1 名 高山域の積雪から大気環境情報を読み解く

D 会場

スペシャルセッション「力学・化学・放射過程を通じた太陽活動の地球大気に及ぼす影響」

座長：廣岡俊彦(九大)

- D201 藤原均(東北大院理)・三好勉信(九大院理)他 2 名 中間圏・熱圏領域における大気微量成分のモデリング：太陽・オーロラ活動変化に対する一酸化窒素密度の変動と熱圏大気のエネルギー収支
- D202 高野浦亮子・三好勉信(九大理)他 1 名 太陽放射量 27 日周期変動と中層大気大循環との関連
- D203 柴田清孝・出牛真(気象研) 太陽黒点 11 年周期の放射強制力
- D204 北村美沙子・廣岡俊彦(九大理)他 1 名 成層圏及び下部中間圏における大気潮汐波について
- D205 黒田友二・柴田清孝(気象研) 太陽活動に伴う南半球環状モードの変調 - 鉛直方向への伸張の違い -
- D206 山崎孝治(北大院地球環境)・黒田友二(気象研)他 2 名 冬季北大西洋振動の夏への影響の太陽活動による変調 - 成層圏オゾン変動の効果 -
- D207 小寺邦彦(気象研) 成層圏過程を通じた太陽活動の影響：数百年周期変動
- D208 宮崎千尋・安成哲三(名大地球水循環) 冬季地上気温における主要モードと太陽活動との関係

大会第3日〔11月22日(火)〕 A会場

(〃は講演者を表す)

午前(09:15 ~ 11:30)

午後(13:30 ~ 17:00)

熱帯大気 II

座長：吉岡真由美(東大海洋研/地球シミュレータ)

- A301 岩朝美晴(東大気候システム)・荒川隆(高度情報科学技術研究機構)他1名 RAMS を用いた積雲対流に伴う熱帯・亜熱帯領域における水蒸気輸送のメカニズムに関する解析
- A302 吉岡真由美(東大海洋研/地球シミュレータ)・栗原宣夫(FRCGC) 大気大循環モデルを利用した水感星実験に見られる熱帯低気圧性擾乱
- A303 那須野智江・富田浩文(FRCGC)他3名 全球非静力学モデルを用いた水感星数値実験-赤道波と結合した大規模雲システムの解析-
- A304 菊地一佳・Bin Wang(ハワイ大) TRMM により得られる北半球冬季 MJO に伴う対流発達地域特性
- A305 阿保真・長澤親生(首都大システムデザイン)他1名 赤道ミラーライダーによる対流圏エアロゾルおよびシーラスの観測
- A306 長澤親生・阿保真(首都大システムデザイン)他1名 赤道中間圏における Na と Fe 原子層と気温構造の観測

台風 I

座長：足立アホロ(気象研)

- A307 村田昭彦(気象研) 2004年台風21号による紀伊半島での豪雨
- A308 益子涉(気象研) 台風0422号による関東平野での下層寒気場内の強風のメカニズム
- A309 足立アホロ・小林隆久(気象研) 台風0221号に伴う強風のウィンドプロファイラーによる観測
- A310 楠研一・益子涉(気象研) 台風0418号のインナーコアの構造と時間変化
- A311 藤部文昭・北島尚子(気象研) 日本に上陸する台風の地上風速分布の統計的分類

台風 II

座長：坪木和久(名大地球水循環)

- A351 藤井健(京都産業大理) 2004年に日本に上陸した台風の気圧分布について
- A352 吉川敏文・板野稔久(防衛大地球) 台風における気圧分布の近似式について
- A353 筆保弘徳・飯塚聡(防災科研)他1名 台風を起源とする東南・南アジアを西進する擾乱の統計解析
- A354 藤田浩史(京大生存研)・手柴充博(オクラホマ大)他5名 勢力の弱かった台風0411号(Malou)中心付近の構造
- A355 中澤哲夫(気象研) 日本に接近・上陸台風の多かった年と少なかった年での循環場の違いについて
- A356 上野充(気象研) 台風コア域内の降水の非対称と鉛直シアアの関わり-衛星データの活用-
- A357 坪木和久(名大地球水循環)・榊原篤志(中電シーアイ) 中緯度における台風に伴う豪雨の形成過程-2004年10月20日の台風0423号に伴う近畿地方の豪雨事例について-
- A358 國井勝(気象研) 4次元変分法による台風初期値化法の改善(序報)
- A359 山岬正紀(FRCGC) 積雲対流解像モデルによる渦(台風)の数値実験
- A360 遊馬芳雄(北大院理) 北海道に強風をもたらした2004年台風18号の数値実験
- A361 三苜啓太・伊藤久徳(九大院理) 台風発生過程の再現実験
- A362 初鹿宏壮・筒井純一(電中研)他4名 JRA-25 長期再解析データによる台風の移動と大規模場の関係
- A363 釜塚弘隆・山崎信雄(気象研)他1名 再解析に表現される台風のコンボジット解析(その2)
- A364 大澤輝夫(神戸大海事科学)・中野俊夫(日本気象協会)他2名 台風時の内湾海上風推算の研究~台風ボーガスの導入~
- A365 武井千恵・真栄城尚(琉球大理工)他2名 ひまわり衛星雲画像を用いた海洋上台風の雨域推定
- A366 杉村裕子(琉球大理工)・山下芳文(京大高等教育研究開発推進センター)他1名 渦糸群相互作用による台風進路モデル
- A367 星野俊介・中澤哲夫(気象研) TRMM/TMI 輝度温度データを用いた台風の強度推定法

大会第3日〔11月22日(火)〕 B会場

(~~~~は講演者を表す)

午前(09:15 ~ 11:30)

午後(13:30 ~ 17:00)

気候システムⅢ

座長：高谷康太郎(FRCGC)

- B301 木村詞明(北大低温研) 北海道沖の海水はどこからきたものかー Aqua/AMSR-E 画像を用いた海水移流の解析ー
- B302 高谷康太郎(FRCGC)・中村尚(FRCGC/東大理) 冬季東アジアモンスーンの年々変動ー惑星波の季節進行の視点から
- B303 田中博(FRCGC/筑波大院生命環境)・松枝未遠(筑波大院生命環境) 地球大気の特異固有解として得られる北極震動(その2) 中立モードの外力の構造
- B304 高橋政憲(東海大)・立花義裕(東海大/FRCGC)他1名 夏の北半球環状モードと中緯度域の停滞性擾乱の発達
- B305 鎌田義紀(東海大)・立花義裕(東海大/FRCGC)他2名 対流圏中層に現れる温度逆転層の全球海陸別分布とその特徴
- B306 宮坂貴文・中村尚(東大院理) 夏季南半球亜熱帯高気圧の三次元構造と形成力学
- B307 Bannu・Dodi Sudiana(千葉大 CEReS)他4名 Analysis on the impacts of ENSO, IOD, and monsoon over the Maritime Continent of Indonesia
- B308 筒井純一・初鹿宏壮(電中研)他2名 JRA-25 長期再解析データによる大規模熱帯循環の気候値と年々変動

気候システムⅣ

座長：谷貝 勇(気象大)

- B351 桑形恒男(農環研) 日本における気温-降水量分布の気候学的な特性
- B352 谷貝勇(気象大) 地球温暖化が日本の夏期に及ぼす影響とこれを考慮した季節予報の改善方針について
- B353 藤部文昭・山崎信雄(気象研)他1名 日本における大雨と少雨の増加傾向：1901～2004年
- B354 山崎信雄(気象研) 東アジアにおける強雨の長期変動と大規模場の変動との関連
- B355 中山祐貴(岡山大院教育)・加藤内蔵進(岡山大教育) 東アジア前線帯への南風侵入過程の暖候期を通じた季節進行について(秋雨期に注目して)
- B356 加藤内蔵進(岡山大教育)・濱本奈津美(岡山大理)他2名 初夏に日本列島付近へ北上する台風の進路や周辺場の特徴について
- B357 山元龍三郎(元京大)・伊ヶ崎英雄(日本気象協会関西支社)・他2名 温度成層の長期変動の実態
- B358 山崎信雄・釜堀弘隆(気象研)他1名 日本の高層ゾンデデータを用いた JRA-25、ERA40、NCEP2 の検証

座長：谷貝亜紀代(地球研)

- B359 谷貝亜紀代(地球研)・Pingping Xie(Climate Prediction Center/NOAA) 雨量計に基づく降水データセットによる TRMM/PR Ver.5, Ver.6 の検証
- B360 高橋清利・山崎信雄(気象研)他1名 再解析データ(JRA-25、ERA40、NCEP1/2)における降水頻度特性
- B361 伍培明・佐々木太一(IORGC)他4名 インドネシアスマトラ島付近における可降水量と降水の日変化
- B362 谷本陽二・梶谷卓志(北大院地球環境) 南アメリカ大陸及びアフリカ大陸における降水量の1年サイクルの特徴
- B363 二宮洗三(FRCGC) 大気気候モデル T106L56 に見られる主低気圧と寒気内低気圧の発達との関係
- B364 木村圭司(北大情報)・谷口伸(日本航空)他1名 夏季のモンゴル高原における低気圧活動
- B365 杉本志織・余偉明(東北大院理)他1名 チベット高原上におけるトラフ通過時の水蒸気輸送に関する数値解析
- B366 高敷出・佐々木秀孝(気象研)他3名 チベット氷河の涵養メカニズムに関するモデル研究
- B367 鈴木春寿恵(総研大)・山内恭(極地研/総研大)他1名 南極域における大気輸送の季節変化とそのメカニズム

大会第3日 [11月22日(火)] C会場

(~~~~は講演者を表す)

午前(09:15 ~ 11:30)

午後(13:30 ~ 17:00)

物質循環Ⅲ

座長：菅田誠治(環境研)

- C301 仲田季寧・北和之(茨城大)他3名 航空機リモートセンサ Airborne-OPUS による紫外後方散乱スペクトルからのオゾンカラム量導出
- C302 香川晶子(富士通 FIP)・笠井康子(NICT)他3名 アラスカ・ポーカークラットで FTIR を用いて 1999 年から観測された成層圏オゾン, HNO₃, HCl, HF
- C303 笠井康子(NICT)・J. Urban(Chalmers Univ.)他 中層大気オゾン同位体偏重
- C304 戸田康子・池田奈生(奈良女子大理)他5名 ILAS データを用いたトレーサー解析-脱窒・脱水の推定-
- C305 佐伯浩介(神戸大院)・中島英彰(環境研)他2名 ILAS-II 観測による 2003 年冬季南極成層圏脱窒メカニズムの解析
- C306 佐藤薫・富川喜弘(極地研)他4名 昭和基地オゾンゾンデ集中観測および ILAS-II 観測に基づくオゾン層回復過程の3次元構造の研究
- C307 中里真久・永井智広(気象研)他1名 対流圏オゾンライダーで観測された成層圏オゾンの対流圏への侵入
- C308 菅田誠治・秋吉英治(環境研)他1名 Time threshold diagnostics (TTD)を用いた成層圏極渦内の下降流の解析
- C309 秋吉英治・菅田誠治(環境研)他2名 1997 年北極渦の Polar Processor 効果

観測手法

座長：柳野 健(気象研)

- C351 長澤親生(首都大システムデザイン)・永井智広(気象研)他3名 1.6μm 帯を用いた二酸化炭素鉛直分布観測用 DIAL の開発計画
- C352 石井昌憲・水谷耕平(NICT)他2名 CO₂ 濃度計測用コヒーレント差分吸収ライダーの開発
- C353 入江仁士・金谷有剛(FRCGC)他2名 MAX-DOAS 装置による対流圏 NO₂ の観測 (1) -カラム量導出アルゴリズムの開発-
- C354 岩淵弘信・入江仁士(FRCGC)他2名 MAX-DOAS 装置による対流圏 NO₂ の観測 (2) -放射伝達モデルを用いた AMF の計算-
- C355 圓山憲一・真木雅之(防災科研)他3名 Xバンドマルチパラメータレーダから推定した雨量分布の検証(2)
- C356 菊地信弘・熊谷博(NICT) 雲レーダ、ライダーおよびマイクロ波放射計による水雲の微物理鉛直プロファイルの導出
- C357 柳野健(気象研) 単一ドップラー新解析法によるデュアル未解析域への拡張
- C358 奥勇一郎・石川裕彦(京大防災研)他1名 GMS-5 と ERA40 を用いたチベット高原上の地表面フラックスの算出
- C359 青梨和正(気象研) 衛星搭載マイクロ波放射計 AMSRE 降水強度リトリバルアルゴリズムの開発 (その4)
- C360 Jules Rostand Dim・高村民雄(千葉大 CEReS)他3名 Satellite retrievals from inhomogeneous clouds
- C361 太田芳文・今須良一(東大気候システム) 衛星搭載熱赤外放射計を用いた CO₂ 濃度解析手法の検討
- C362 中島孝(東海大/千葉大 CEReS)・高村民雄(千葉大 CEReS)他2名 MODIS リサンプリング中解像度輝度データセットを用いた領域雲特性解析
- C363 青木輝夫(気象研)・本吉弘岐(総研大)他5名 全天分光日射計による積雪の分光アルベドと積雪粒径情報の関係
- C364 村山貢司・登内道彦(気象業務支援センター) 暑熱環境指標 WBGT の連続観測と黒球温度の推定
- C365 伊藤文・酒井敏(京大院人間・環境)他1名 京都気温観測の観測値を用いた熱慣性の算出
- C366 花房龍男・青島武(英弘精機)他1名 湿度計を使用しない蒸発量の簡易測定法について

大会第3日 [11月22日(火)] D会場

(~~~~は講演者を表す)

午前(09:15 ~ 11:30)

午後(13:30 ~ 17:00)

大気力学 I

座長：中島健介(九大理)

- D301 松島和宏(東海大地球環境科学)・三村和男(東海大教養) 傾圧性と惑星規模ベータ効果を併せ持つ室内実験—新装置による検証—
- D302 高木征弘(東大理)・松田佳久(東京学芸大地球学) 遠心力バランスした東西風の安定性(4)
- D303 檜尾守昭(気象大) 湿潤対称不安定の統一的定式化
- D304 谷口博・石渡正樹(北大院地球環境) 東西一様基本場に於ける慣性不安定(5) —高次モードの解釈—
- D305 渡部雅造(北大院地球環境)・Fei-fei Jin(フロリダ州立大) 線型大気定常応答の加速反復解法(AIM)とその応用
- D306 河谷芳雄(FRCGC)・高橋正明(FRCGC/東大気候システム)他1名 東西非一様な赤道域重力波がQBOに及ぼす影響について
- D307 渡辺真吾(FRCGC)・永島達也(環境研) 高解像度AGCMを用いて重力波抵抗パラメタリゼーションを改良する試み(II)
- D308 門脇正尚・高橋正明(東大気候システム) 火星大気大循環モデルを用いた火星ダストストーム時間発展の再現実験
- D309 高橋芳幸・林祥介(北大院理)他2名 火星大気大循環モデルで表現されるダスト巻き上げと輸送
- D310 中島健介(九大理) “ホットジュピター”の大気における放射対流不安定
- D311 山中大学(神戸大自然/IORGC) 水平対流論の再考(2): 熱源分布への応答としての子午面循環

大気力学 II

座長：伊賀啓太(東大海洋研)

- D351 有井卓(東海大理院)・三村和男(東海大教養) 鉛直設置型閉ループ内熱対流実験における主流の振る舞い—理論値と実験値の比較—
- D352 渡辺高宏(東海大理院)・三村和男(東海大教養) 鉛直設置型閉ループ内熱対流シミュレーション—定常理論解の修正—
- D353 間瀬博文(所属なし) ろうそく3本だけで2温度回転円盤による世界最小の竜巻を発生させる実験
- D354 板野登久・丸山清志(防衛大地球) 3つの階段状渦度域で構成される軸対称渦の特異値解析
- D355 樋口阿里沙(京大理)・酒井敏(京大人環) カルマン渦は何故、対になって現れるのか?
- D356 澤田謙(大阪管区気象台)・鈴木貴(大阪大基礎工) 定常大規模乱流を記述する渦点系平衡平均場方程式の解析
- D357 志吉雅和・岩山隆寛(神戸大院自然) Cherney-Hasegawa-Mima 方程式の asymptotic model のハミルトン形式
- D358 伊賀啓太(東大海洋研) 地衡流ジェットから生じる渦列の近似平衡解
- D359 郡司博史(京大理)・酒井敏(京大人環) 回転球面上の円領域における周極流の形成に関する室内実験

相互作用

座長：山崎剛(IORGC)

- D360 岡部雅世(東海大)・立花義裕(FRCGC/東海大) 夏季北太平洋の下層雲の年々変動卓越モードとその駆動源
- D361 吉田駿・小守信正(地球シミュレータ)他1名 全球大気海洋結合シミュレーションにおける低気圧活動とオホーツク海の海水
- D362 山内明子(東洋大院生命科学)・小林裕司(伊豆潜水調査センター)他3名 季節標準境界による海水温変動解析—黒潮大蛇行の影響について—
- D363 山内明子(東洋大院生命科学)・小林裕司(伊豆潜水調査センター)他3名 台風上陸時における海水温変動の LFD 変化について
- D364 吉野純・村上智一(岐阜大工)他3名 台風0416号に伴う瀬戸内海における広域高潮に関する数値実験
- D365 山崎剛(IORGC)・加藤京子(JST)他2名 陸面モデルによる北方林の水・エネルギー循環に関する考察
- D366 佐藤永・伊藤昭彦(FRCGC)他1名 動的全球植生モデル SEIB-DGVM の開発
- D367 森山茂(日大)・岩嶋樹也(京大)他1名 閉鎖生態系の動態に関する研究(その4)—環境的相貌の回帰—
- D368 篠田雅人(首都大)・恒川篤史(鳥取大)他6名 干ばつ実験とその生態気候学における意義

大会第3日 [11月22日(火)] 11:30 ~ 12:30 ポスターセッション

(~~~~は講演者を表す)

- P301 小畑淳(気象研) 気候と炭素循環の相互作用—気象研モデルによる評価
- P302 安田珠幾(気象研)・高谷祐平(気象庁気候情報)他 2名 大気海洋結合モデルによるエルニーニョ予測システムの開発—海洋鉛直粘性拡散係数の違いが予測に与える影響—
- P303 平林由希子(山梨大院)・鼎信次郎(地球研)他 2名 CCSR/NIES/FRCGC 結合モデルにおける温暖化時の渇水・洪水の変化
- P304 植田宏昭・岩井彩香(筑波大院生命環境)他 2名 温暖化時のモンスーン降水と循環場のパラドックス
- P305 植原孝浩(防災科研) 大気循環モデルによる2×CO₂実験において再現された熱帯低気圧活動度の積雲対流調節方式の違いによる影響について
- P306 稲田智子(お茶の水女子大院) 日本の冷夏予測のための気候学的研究—1993・2003年の比較を中心として—
- P307 堀聡嗣・松本淳(東大院理)他 2名 チベット高原における積雪の数十年規模変動
- P308 一柳錦平(IORGC)・山中大(IORGC/神戸大)他 1名 ネパール全域における1987-96年の降水量変動
- P309 村田文絵(地球研)・寺尾徹(大阪学院大)他 3名 チェラプンジにおける降水過程に関する研究(第1報)
- P310 高橋洋(名大地球水循環)・安成哲三(名大地球水循環/FRCGC) タイにおける9月の降水量の長期減少傾向と関連する大気循環場の変化
- P311 李相勳(日大院地球情報) 北太平洋及び東アジアにおけるストーム活動と冬季モンスーン
- P312 朴景澤(JST)・山崎剛(IORGC)他 2名 東ユーラシア域における水・エネルギー収支の時・空間分布の評価
- P313 佐々木大祐・山本宗尚(名大院環境)他 2名 TRMM データを用いた南米ラプラタ川流域の降水特性
- P314 横井寛・里村雄彦(京大院理)他 1名 インドシナ半島の降水の季節内変動: 30-60日変動と10-20日変動の卓越性
- P315 岩崎博之(群馬大教育) 中緯度の定在 Rossby 波と熱帯大気の相互作用の可能性について
- P316 江口菜穂・横田達也(環境研)他 1名 MODIS/Terra データを用いた絹雲の季節・経年変動について
- P317 岡本幸三(気象庁数値予報)・John. C. Derber(NOAA/NCEP/EMC) NCEP 全球データ同化システムにおける SSM/I 輝度温度の直接同化
- P318 大垣内るみ(FRCGC)・阿部彩子(東大気候システム/FRCGC)他 3名 完新世中期(6000年前)のアジアモンスーンにおける海洋の役割
- P319 望月泰・宇野幸代(東北大院理)他 1名 波動平均流相互作用に基づくエネルギーとその変換項の季節変化
- P320 乙部真人・玉木克美(福岡大院) 鉛直閉ループの熱対流—周期的反転—
- P321 檜尾守昭(気象大) 一般的な水平流の慣性・対称不安定
- P322 富川喜弘・佐藤薫(極地研) 改良ラグランジュ平均座標系で記述する北極振動の下方伝播
- P323 山下陽介(東大気候システム)・高橋正明(東大気候システム/FRCGC)他 1名 火星大気の北極振動(その2) ~地球大気との比較~
- P324 杉山耕一朗・小高正嗣(北大理)他 2名 木星大気対流圏における静的安定度の水存在量に対する依存性
- P325 水津玲・宮原三郎(九大理)他 1名 MLT 領域潮汐波の変動とプラネタリー波の変動について II
- P326 山森美穂(NICT)・宮崎和幸(東北大院)他 7名 夏季北米アラスカにおける対流圏界面直上域のオゾン変動 (2)
- P327 市野美夏(お茶の水女子大院人間文化) 全日射量推定における天気別日別晴天指数の空間代表性
- P328 内山明博・山崎明宏(気象研)他 3名 EAREX2005 で使用した日射計の検定
- P329 深堀正志・藤枝綱(気象研) CO₂ 純ガス実験における v_s 帯の吸収線形
- P330 田中智章・杉田考史(環境研)他 4名 CO₂ v_s 帯における CO₂-N₂ 混合気体の吸収線形の隔壁について
- P331 石元裕史・真野裕三(気象研)他 1名 FDTD 法を用いた不規則形状微粒子の光散乱計算
- P332 萩野谷成徳(気象研) 日本におけるポテンシャル蒸発量の長期変動
- P333 清原康友(神戸大自然)・山中大(神戸大自然/IORGC) 晴天日における大気境界層内の風の半日周期変動について
- P334 木下正博(滑川高)・市瀬和義(富山大教育)他 1名 富山湾における層気楼の発生理由 VII ~定点カメラによる暖気移流の実態と、層気楼の持続モデル~
- P335 岡本健・佐々井崇博(名大院環境)他 1名 MODIS データを用いた潜熱推定手法の開発—東海地域における潜熱の空間的パターン把握—
- P336 猿田健一・内藤玄一(防衛大地球)他 2名 ヘリコプターによる黒潮流域上の大気境界層の観測
- P337 西川将典・檜山哲哉(名大地球水循環)他 4名 中国・黄土高原において混合層発達時に観測された鉛直風の特徴
- P338 小松麻美・遊馬芳雄(北大院理) 南極昭和基地の局地風
- P339 澤井哲滋・千葉長(気象研)他 2名 関東地方の夏の高湿イベント—その2—数値モデルを用いた再現実験に向けて—
- P340 小川弘子・菅原広史(防衛大)他 6名 建物キャノピー内の気流場と風速プロファイル
- P341 田中博春・三上岳彦(首都大) 汐留地区のビル群が海風の風下地域に及ぼす影響評価—パイロットバルーンを用いた鉛直観測の結果から—
- P342 関隆則(日本気象予報士会) 都市域における気温日較差の日照感度の推移
- P343 植原保志(信州大教育)・佐藤桂治(信州大学教育学部付属松本中) 長野市篠ノ井における急坂観測から推定した郊外の温度勾配とヒートアイランド強度
- P344 松井仁志・小池真(東大院理)他 6名 3次元モデルを用いた都市大気におけるエアロゾルの動態に関する初期研究結果
- P345 五藤大輔(東大気候システム)・竹村俊彦(九大応力研)他 1名 有機炭素エアロゾルの雲場への影響
- P346 高橋由・柴田清孝(気象研)他 3名 鉱物ダストの放射強制力~年々変動とその要因~
- P347 佐竹晋輔(地球研)・杉本伸夫(環境研)他 2名 2005年4月30日に仙台上空に飛来した大規模黄砂の輸送構造

- P348 渡辺孝一(富山県立大短大部)・朴木英治(富山市科学文化センター)他 6 名 立山における微量気体成分および霧水・降水中の化学成分濃度の測定
- P349 池田奈生・戸田庸子(奈良女子大理)他 1 名 光化学ボックスモデルによる 1997 年冬季北極圏での ClONO₂ の再現実験
- P350 安成哲平(北大院環境)・白岩孝行(地球研)他 6 名 アラスカ・ランゲル山へ輸送される空気塊の起源と雪氷コアデータの比較
- P351 財前祐二・岡田菊夫(気象研) 春季 Barrow で採集された大気エアロゾル粒子の混合状態
- P352 A. Griesfeller・J. Griesfeller(環境研)他 3 名 Comparison of ILAS-II data with ground-based FTIR-measurements of O₃, HNO₃, N₂O, and CH₄ over Kiruna, Sweden
- P353 清水厚・杉本伸夫(環境研)他 1 名 タイにおけるエアロゾル鉛直分布構造の長期ライダー観測
- P354 梅澤栄吉・岩崎杉紀(防衛大)他 2 名 ペルシャ湾西方沿岸部における砂嵐の研究(I) 人工衛星観測法に関する考察
- P355 梅澤栄吉・岩崎杉紀(防衛大)他 2 名 ペルシャ湾西方沿岸部における砂嵐の研究(II) 発生過程の気象学的考察
- P356 西沢智明(気象研/学振)・岡本創(東北大理院)他 3 名 2 波長偏光ライダーデータを用いたエアロゾル導出アルゴリズムの開発 (III)
- P357 瓜田直美・太田絵美(奈良女子大理)他 5 名 衛星観測で得られた対流圏オゾンデータの検証
- P358 高田直樹・遠峰菊郎(防衛大地球海洋) 熱気球により観測された鉛直風速の評価について
- P359 門崎学(JAXA)・山内恭(総研大/極地研)他 2 名 GLI を利用した南極域夜間の雲検出
- P360 関澤信也(NICT) MSPC ウィンドプロファイラの初期観測結果
- P361 Nanda B. Adhikari・井口俊夫(NICT) Effect of Raindrop Size Distribution Variability in Dual-Frequency Radar Rain Retrievals
- P362 山内洋・鈴木修(気象研)他 1 名 Hybrid Multi-PRF 法の開発とそれを利用したドップラーレーダーの探知距離の拡大
- P363 佐々木宏・重高一(大阪府大院工) 1 次元放射伝達モデルを用いた TRMM 降雨プロダクトの物理的検証(その 2)
- P364 岩波越(防災科研)・蝶野洋平(HBA)他 6 名 2 波長レーダーを用いた降水量鉛直プロファイルのリトリバル (3) - 観測データへの適用 -
- P365 瀬戸心太・高橋暢宏(NICT)他 1 名 陸上降雨判定アルゴリズムの AMSRE への適用
- P366 山下晃・角川咲江(西堀榮三郎探検の殿堂) 新しい雨粒淨遊装置とその使用経過
- P367 石坂雅昭・岩本勉之(防災科研)他 5 名 降雪粒子の種類に関する観測と気象モデル出力との比較
- P368 井口享道・中島映至(東大気候システム)他 1 名 ビン型雲エアロゾル解像モデルの開発と初期テスト報告
- P369 高橋暢宏(NICT) 融解層モデルの衛星搭載マイクロ波放射計降水リトリバルアルゴリズムへの導入
- P370 植松明久・山本真之(京大生存研)他 2 名 ミリ波ドップラーレーダーで観測された重力波に伴う霧のバンド状構造
- P371 藤沢仰(富山大院理工)・中井専人(防災科研)他 1 名 レーダー解析に基づく寒気進入時における降雪分布の変化
- P372 佐野哲也・坪木和久(名大地球水循環) 夏季に平野に接する山岳斜面上で発達した積乱雲の内部構造
- P373 笹岡雅宏・高山陽三(気象研) 関東地方における雷雨日の水蒸気挙動: 気象研究所 BLR・MR、気象庁 BLR を用いた研究
- P374 P. Kishore・S. P. Namboothiri(NICT)他 2 名 GPS radio occultation with CHAMP and SAC-C: Global and seasonal variations of gravity wave activity
- P375 十倉崇行・奥勇一郎(京大防災研)他 1 名 チベット高原上の山谷地形に伴う雲活動について
- P376 上野健一(筑波大院生命環境)・山田広幸(IORGC) 1998 年モンスーン期に見るチベット高原内部の降水レボリユーション
- P377 宮川知己・里村雄彦(京大院理) モンスーンオンセット直前頃にベンガル湾を南下する擾乱の解析
- P378 山田広幸・耿 驥(IORGC)他 1 名 長江下流域における梅雨前線低気圧の数値実験
- P379 河野圭丞・坪木和久(名大地球水循環)他 6 名 梅雨前線の南東側で観測された線状降水帯の構造
- P380 清水慎吾(名大地球水循環)・上田博(名大地球水循環/IORGC)他 2 名 湿潤環境場における対流セルの寿命の統計解析のための対流セル自動検出・追跡アルゴリズムの開発
- P381 瀬古弘・小司禎教(気象研)他 5 名 豪雨や短時間強雨をもたらした降水系の同化実験 (その 2)
- P382 鈴木修・山内洋(気象研) 2005 年 5 月 15 日に東京都西部〜神奈川県北部に突風と降雹をもたらしたスーパーセルストームの解析
- P383 中里真久・鈴木修(気象研)他 3 名 大気安定度指数を用いた 2003 年から 2005 年のシビア現象発生時の環境場の解析
- P384 紫村孝嗣(防衛大)・小林文明(防衛大) 冬季雷雲における発雷と下降流の関係について
- P385 岡本悟(大阪航空測候所)・牧広篤(気象大) 風速の鉛直シフトがおよそ風に与える影響の数値シミュレーション
- P386 黒田徹(気象研/JST)・川畑拓矢(気象研)他 1 名 高解像度メソスケール非静力学モデルの誤差相関
- P387 本田有機・小泉耕(気象庁数値予報) - JNoVA 開発報告 (第 3 報) - 非静力学 4 次元変分法解析システムによる地上降水データ同化実験
- P388 森川靖大(北大理)・石渡正樹(北大地球環境)他 3 名 ソフトウェアとしての可読性を重視した全球ブリミティブモデル
- P389 宮崎保彦(気象庁統計室) 熱帯低気圧発生地点分布と ITCZ 対流雲域
- P390 和田章義・益子涉(気象研) 非静力学モデルによる台風 0410 号の海洋混合層結合実験
- P391 横山千恵・高森縁(東大気候システム) TRMM 衛星データを用いた台風の降雨特性の解析
- P392 佐藤ひとみ・山崎孝治(北大院地球環境) 台風の温帯低気圧化における前線形成過程について
- P393 橋本賢一郎(東海大)・立花義裕(FRCGC/東海大) 日本周辺と北アメリカ東部で発生する爆弾低気圧の年々変動と相互の関連性
- P394 本田明治(FRCGC)・山根省三(FRCGC/千葉科学大危機管理)他 1 名 冬季北半球対流圏上層に卓越する変動の十年規模変動と季節依存性
- P395 堀川英隆(京大院理)・向川均(京大防災研) 北半球夏季における中高緯度の長周期変動とオホーツク海高気圧
- P396 平沢尚彦(極地研)・尾塚馨一(福岡大)他 3 名 梅雨期の北海道オホーツク海岸域における無人航空機による大気観測

講演者索引

<A>

Abo Makoto(阿保真) A305
 Adachi Ahoro(足立アホロ) A309
 Adhikari Nanda B. P162
 Adhikari Nanda B. P361
 Akiyoshi Hideharu(秋吉英治) C309
 Aoki Kazuma(青木一真) C164
 Aoki Teruo(青木輝夫) C363
 Aonashi Kazumasa(青梨和正) C359
 Aonashi Kazumasa(青梨和正) D163
 Arai Miki(荒井美紀) B101
 Aranami Kohei(荒波恒平) D159
 Arao Kimio(荒生公雄) C162
 Arii Suguru(有井卓) D351
 Asada Hiroyuki(浅田浩之) P191
 Asuma Yoshio(遊馬芳雄) A360

Bannu B307
 Bessho Kotaro(別所康太郎) P170

<C>

Chiba Masaru(千葉長) P140
 Chuda Takashi(中田隆) A204

<D>

Deguchi Seiji(出口清児) P143
 Deushi Makoto(出牛真) P145
 Dim Julesrostand C360

<E>

Eguchi Nawo(江口菜穂) P153
 Eguchi Nawo(江口菜穂) P316
 Eito Hisaki(永戸久喜) A159
 Emori Seita(江守正多) B104
 Endo Hirokazu(遠藤洋和) B203
 Enomoto Takeshi(榎本剛) B208

<F>

Fudeyasu Hironori(筆保弘徳) A353
 Fujibe Fumiaki(藤部文昭) A311
 Fujibe Fumiaki(藤部文昭) B353
 Fujieda Tsuyoshi(藤枝鋼) P130
 Fujii Takeshi(藤井健) A351
 Fujisawa Gyo(藤沢仰) P371
 Fujita Shin-ichi(藤田慎一) P148
 Fujiwara Hitoshi(藤原均) D201
 Fukabori Masashi(深堀正志) P329
 Fukuda Masatof(福田真人) P144
 Furuta Hidehumi(古田英文) D166

<G>

Gamo Minoru(蒲生総) C105
 Geng Biao(耿驃) A106
 Gohara Ken(郷原健) A208
 Goto Daisuke(五藤大輔) P345
 Griesfeller Alexandra P352
 Griesfeller Jan P152
 Gunji Hiroshi(郡司博史) D359

<H>

Haginoya Shigenori(萩野谷成徳) P332

Hanafusa Tatsuo(花房龍男) C366
 Hara Nobuki(原伸樹) P127
 Harada Yayoi(原田やよい) B202
 Hasegawa Akira(長谷川聡) B109
 Hashimoto Akihiro(橋本明弘) A155

Hashimoto Akihiro(橋本明弘) A156
 Hashimoto Kenichirou(橋本賢一郎) P393

Hatakeyama Shiro(畠山史郎) C209
 Hatsushika Hiroaki(初鹿宏壮) A362

Hayashi Kentaro(林健太郎) D108
 Hayashi Taiichi(林泰一) D102
 Higashi Hironori(東博紀) P112
 Higashi Kuniaki(東邦昭) P181
 Higuchi Arisa(樋口阿里沙) D355
 Hinokio Moriaki(檜尾守昭) D303
 Hinokio Moriaki(檜尾守昭) P321
 Hirabayashi Yukiko(平林由希子) P303
 Hiraki Yasutaka(平木康隆) P155
 Hirasawa Naohiko(平沢尚彦) P396

Hirosawa Manabu(広沢学) P194
 Hisada Yukiko(久田由紀子) P141
 Honda Meiji(本田明治) P394
 Honda Yuki(本田有機) D161
 Honda Yuki(本田有機) P387
 Hori Masatake(堀正岳) P105
 Hori Satoshi(堀聡嗣) P307
 Horikawa Hidetaka(堀川英隆) P395

Horinouchi Takeshi(堀之内武) A209
 Hoshino Shunsuke(星野俊介) A367
 Hozumi Yu(穂積祐) B167
 Hujita Hiroshi(藤田浩史) A354
 Huruno Akiko(古野朗子) P150

<I>

Ichikawa Hiroki(市川裕樹) P109
 Ichino Mika(市野美夏) P327
 Ichiyonagi Kinpei(一柳錦平) P308
 Iga Keita(伊賀啓太) D358
 Igarashi Yasuhiro(五十嵐康人) C203

Iguchi Takamichi(井口享道) P368
 Iizumi Toshichika(飯泉仁之直) P106

Ikazaki Hideo(伊ヶ崎英雄) B357
 Ikeda Kenichi(池田健一) C104
 Ikeda Nao(池田奈生) P349
 Inada Tomoko(稲田智子) P306
 Inoue Jun(猪上淳) P136
 Inoue Tomoshige(井上知栄) P111
 Inoue Toshiro(井上豊志郎) P158
 Irie Hitoshi(入江仁士) C353
 Ishii Shoken(石井昌憲) C352
 Ishimaru Kazuki(石丸和樹) P107
 Ishimoto Hiroshi(石元裕史) P331
 Ishizaka Masaaki(石坂雅昭) P367
 Itagaki Shinsuke(板垣真資) P192
 Itano Toshihisa(板野稔久) D354
 Itoh Aya(伊藤文) C365

Itoh Hisanori(伊藤久徳) A107
 Iwabuchi Hironobu(岩淵弘信) C354
 Iwai Kunimoto(岩井邦中) C202
 Iwamoto Katsuyuki(岩本勉之) A112

Iwanami Koyuru(岩波越) P364
 Iwasa Yoshiharu(岩朝美晴) A301
 Iwasaki Hiroyuki(岩崎博之) P173
 Iwasaki Hiroyuki(岩崎博之) P315
 Iwasaki Suginori(岩崎衫紀) P159
 Iwasaki Suginori(岩崎衫紀) P354
 Iwashima Tatsuya(岩嶋樹也) C102

<K>

Kadokura Shinji(門倉真二) P185
 Kadosaki Gaku(門崎学) P359
 Kadowaki Masanao(門脇正尚) D308

Kagawa Akiko(香川晶子) C302
 Kamada Yoshinori(鎌田義紀) B305

Kamahori Hirotaka(釜堀弘隆) A363
 Kamei Akihide(亀井秋秀) C159
 Kamiguchi Kenji(上口賢治) B103
 Kanada Sachie(金田幸恵) A103
 Kanehisa Hirotada(金久博忠) P121
 Kaneyasu Naoki(兼保直樹) C204
 Kasai Yasuko(笠井康子) C303
 Kato Hiromi(加藤広海) C205
 Kato Kuranoshin(加藤内藏進) B356

Kato Teruyuki(加藤輝之) A104
 Kato Teruyuki(加藤輝之) P186
 Kawabata Hitoshi(川端一史) D105
 Kawabata Takuya(川畑拓矢) A102
 Kawamiya Michio(河宮未知生) B165

Kawamoto Kazuaki(河本和明) A161
 Kawase Hiroaki(川瀬宏明) P174
 Kawatani Yoshio(河谷芳雄) D306
 Kayahara Takahiro(栢原孝浩) P305

Kida Satoshi(木田智史) P164
 Kido Atsushige(城戸敦善) P125
 Kikuchi Kazuyoshi(菊地一佳) A304

Kikuchi Nobuhiro(菊地信弘) C356

Kikuchi Nobuyuki(菊地信行) P160
 Kimura Fujio(木村富士男) B166
 Kimura Fujio(木村富士男) D114
 Kimura Keiji(木村圭司) B364
 Kimura Noriaki(木村詞明) B301
 Kinoshita Masahiro(木下正博) P334

Kishore Pangaluru P374
 Kita Kazuyuki(北和之) C166
 Kitamura Misako(北村美沙子) D204

Kiyohara Yasutomo(清原康友) P333
 Kobayashi Chiaki(小林ちあき) B201

Kobayashi Hiroshi(小林拓) C207
 Kobayashi Takahisa(小林隆久) P166
 Koderu Kunihiko(小寺邦彦) D207
 Kohno Keisuke(河野圭丞) P379
 Komatsu Asami(小松麻美) P338
 Kondo Hiroaki(近藤裕昭) C106
 Kozu Toshiaki(古津年章) A160
 Kubota Hisayuki(久保田尚之) A202
 Kubota Takuji(久保田拓志) P165
 Kumabe Tomoharu(隈部智晴) P190
 Kunii Masaru(國井勝) A358
 Kurita Naoyuki(栗田直幸) C103
 Kuroda Tooru(黒田徹) P386
 Kuroda Yuhji(黒田友二) D205
 Kusaka Hiroyuki(日下博幸) D164
 Kusunoki Kenichi(楠研一) A110
 Kusunoki Kenichi(楠研一) A310
 Kusunoki Shoji(楠昌司) B207
 Kuwagata Tsuneko(桑形恒男) B351
 Kuwako Ken(桑子研) P103
 Kuwata Mikinori(桑田幹哲) C155
 Kuzi Makoto(久慈誠) C160

<M>

Mabuchi Kazuo(馬淵和雄) B164
 Maesaka Takeshi(前坂剛) P163
 Mano Yuzo(真野裕三) P129
 Maruyama Ken-ichi(圓山憲一) C355
 Masamura Shiro(正村史朗) B209
 Mase Hirofumi(間瀬博文) D353
 Mashiko Wataru(益子渉) A308
 Matsuda Kazuhide(松田和秀) D106
 Matsueda Mio(松枝未遠) D154
 Matsui Hitoshi(松井仁志) P344
 Matsuki Atsushi(松木篤) P146
 Matsushima Kazuhiro(松島和宏) D301
 Matsushita Hiroki(松下拓樹) P172
 Minematsu Hiroaki(峯松宏明) P193
 Misumi Ryohei(三隅良平) P168
 Mitoma Keita(三苔啓太) A361
 Mitsuda Chihiro(光田千紘) P124
 Miura Hiroaki(三浦裕亮) B162
 Miura Kazuhiko(三浦和彦) C206
 Miyagawa Manabu(宮川学) P171
 Miyakawa Takuma(宮川拓真) C153
 Miyakawa Tomoki(宮川知己) P377
 Miyasaka Takafumi(宮坂貴文) B306
 Miyazaki Chihiro(宮崎千尋) D208
 Miyazaki Kazuyuki(宮崎和幸) P126
 Miyazaki Yasuhiko(宮崎保彦) P389
 Miyoshi Takemasa(三好建正) D155
 Miyoshi Takemasa(三好建正) D156
 Mochizuki Takashi(望月崇) B161
 Mochizuki Yasushi(望月泰) P319
 Mori Takeshi(森岳史) P176
 Morikawa Yasuhiro(森川靖大) P388

Moriyama Shigeru(森山茂) D367
 Moteki Nobuhiro(茂木信宏) C154
 Motoi Tatsuo(本井達夫) B153
 Murakami Kazutaka(村上和隆) P102
 Murakami Masataka(村上正隆) A151
 Murakami Shigenori(村上茂教) B157
 Murata Akihiko(村田昭彦) A307
 Murayama Shohei(村山昌平) C108
 Murayama Toshiyuki(村山利幸) C152
 Murayama Yasuhiro(村山泰啓) D113

<N>

Nagai Tomohiro(永井智広) C351
 Nagano Yoshinori(永野良紀) B205
 Nagasawa Chikao(長澤親生) A306
 Nagashima Tatsuya(永島達也) B159
 Nagura Motoki(名倉元樹) P113
 Naja Manish C112
 Nakaegawa Toshiyuki(仲江川敏之) B105
 Nakai Sento(中井專人) A111
 Nakajima Kensuke(中島健介) A214
 Nakajima Kensuke(中島健介) D310
 Nakajima Takashi(中島孝) C362
 Nakamura Ikuyo(中村育代) P149
 Nakamura Kozo(中村晃三) A162
 Nakata Toshimi(仲田季寧) C301
 Nakayama Yuuki(中山祐貴) B355
 Nakazato Masahisa(中里真久) C307
 Nakazato Masahisa(中里真久) P383
 Nakazawa Takakiyo(中澤高清) C201
 Nakazawa Tetsuo(中澤哲夫) A355
 Naoe Hiroaki(直江寛明) P151
 Nasuno Tomoe(那須野智江) A303
 Ninomiya Kozo(二宮洗三) B363
 Nishi Noriyuki(西憲敬) A211
 Nishikawa Masanori(西川将典) P337
 Nishimori Motoki(西森基貴) C115
 Nishimura Takeshi(西村建志) A109
 Nishita Chiharu(西田千春) C208
 Nishizawa Keiichi(西澤慶一) P104
 Nishizawa Seiya(西澤誠也) B154
 Nishizawa Tomoaki(西沢智明) P356
 Niwano Masanori(庭野将徳) A212
 Noda Akira(野田暁) P167
 Nohara Daisuke(野原大輔) B106
 Nozawa Toru(野沢徹) B107

<O>

Oasa Yumiko(大朝由美子) P118
 Obata Atsushi(小畑淳) P301
 Odaka Masatsugu(小高正嗣) P123
 Ogasawara Takuya(小笠原拓也) B204

Ogawa Hiroko(小川弘子) P340
 Ogi Masayo(小木雅世) B151
 Ohashi Yoshitaka(大橋喜隆) P175
 Ohba Masamichi(大庭雅道) P115
 Ohfuchi Wataru(大淵濟) B155
 Ohgaito Rumi(大垣内るみ) P318
 Oh'izumi Mitsuo(大泉三津夫) D160
 Ohki Nozomu(大木望) C151
 Ohno Yuichi(大野裕一) A168
 Ohsawa Teruo(大澤輝夫) A364
 Ohzeki Makoto(大関誠) P188
 Okabe Masayo(岡部雅世) D360
 Okamoto Hajime(岡本創) A164
 Okamoto Ken(岡本健) P335
 Okamoto Kozo(岡本幸三) P317
 Okamoto Satoru(岡本悟) P385
 Oku Yuichiro(奥勇一郎) C358
 Okuda Tomohiro(奥田智洋) A166
 Onishi Masanori(大西将徳) P131
 Orikasa Narihiro(折笠成宏) A152
 Osada Kazuo(長田和雄) C156
 Osada Kazuo(長田和雄) C168
 Ota Emi(太田絵美) P157
 Ota Yoshifumi(太田芳文) C361
 Otake Shinichi(大竹慎一) P117
 Otobe Naohito(乙部直人) P320
 Otsuka Kiiyotoshi(大塚清敏) D103
 Otsuka Shigenori(大塚成徳) A213

<P>

Park Hutaek(朴昊澤) P312
 Peng Xindong(彭新東) D152
 Prasad V. S. P114

<S>

Sadamatsu Hirokazu(貞松宏和) P139
 Saeki Kohsuke(佐伯浩介) C305
 Saeki Tazu(佐伯田鶴) C109
 Saito Atsushi(齋藤篤思) A153
 Saito Kazuo(齊藤和雄) D158
 Sakai Daisaku(坂井大作) B152
 Sakai Kotaro(酒井孝太郎) B111
 Sakai Tetsu(酒井哲) A167
 Sakakibara Yasushi(榊原保志) P343
 Sakurai Toshimitsu(櫻井俊光) P119
 Sano Tetsuya(佐野哲也) P372
 Saruta Kenichi(猿田健一) P336
 Sasaki Daisuke(佐々木大祐) P313
 Sasaki Hiroshi(佐々木宏) P363
 Sasaki Taichi(佐々木太一) P138
 Sasaoka Masahiro(笹岡雅宏) P373
 Sassa Koji(佐々浩司) A115
 Satake Shinsuke(佐竹晋輔) P347
 Sato Hisashi(佐藤永) D366
 Sato Hitomi(佐藤ひとみ) P392
 Sato Kaori(佐藤可織) A163
 Sato Kaoru(佐藤薫) C306
 Sato Naoki(佐藤尚毅) A205
 Sato Naoki(佐藤尚毅) A206
 Sato Noboru(佐藤昇) P142
 Satoh Shinsuke(佐藤晋介) A114
 Sawada Ken(澤田謙) D356
 Sawai Tetsuji(澤井哲滋) P339

Seki Takanori(関隆則) P195
 Seki Takanori(関隆則) P342
 Sekiguchi Miho(関口美保) B156
 Sekizawa Shinya(関澤信也) P360
 Seko Hiromu(瀬古弘) P182
 Seko Hiromu(瀬古弘) P381
 Sensu Minami(扇子みなみ) A158
 Seto Shinta(瀬戸心太) P365
 Sha Weiming(余偉明) D115
 Shiba Sadataka(芝定孝) C157
 Shibata Kiyotaka(柴田清孝) D203
 Shibata Takashi(柴田隆) C158
 Shimizu Atsushi(清水厚) P353
 Shimizu Shingo(清水慎吾) P380
 Shimura Takatsugu P384
 Shinoda Masato(篠田雅人) D368
 Shinoda Taro(篠田太郎) P137
 Shiogama Hideo(塩竈秀夫) B108
 Shiogama Hideo(塩竈秀夫) B110
 Shirai Tomoko(白井知子) C101
 Shirooka Ryuichi(城岡竜一) A201
 Shoji Yoshinori(小司禎教) P161
 Shusse Yukari(出世ゆかり) P169
 Sueyoshi Masakazu(末吉雅和) D357
 Sugata Seiji(菅田誠治) C308
 Sugawara Hirofumi(菅原広史) D109
 Sugawara Satoshi(菅原敏) C110
 Sugi Masato(杉正人) D153
 Sugimoto Norihiko(杉本憲彦) P122
 Sugimoto Shiori(杉本志織) B365
 Sugimura Yuko(杉村裕子) A366
 Sugiura Konosuke(杉浦幸之助) D104
 Sugiyama Koichiro(杉山耕一朗) P324
 Suizu Rei(水津玲) P325
 Suzuki Chieko(鈴木智恵子) P134
 Suzuki Junko(鈴木順子) P110
 Suzuki Kazue(鈴木香寿恵) B367
 Suzuki Kentaroh(鈴木健太郎) A157
 Suzuki Kesuke(鈴木啓助) C210
 Suzuki Kikuo(鈴木菊男) A113
 Suzuki Osamu(鈴木修) P382
 Suzuki Tsuneaki(鈴木恒明) B102

<T>

Tajiri Takuya(田尻拓也) A154
 Takada Naoki(高田直樹) P358
 Takagi Masahiro(高木征弘) D302
 Takahashi Hiroshi(高橋宙) P346
 Takahashi Hiroshi(高橋洋) P310
 Takahashi Kenshi(高橋けんし) P154
 Takahashi Kiyotoshi(高橋清利) B360
 Takahashi Masanori(高橋政憲) B304
 Takahashi Nobuhiro(高橋暢宏) P369
 Takahashi Yoshiyuki(高橋芳幸) D309
 Takamura Chikako(高村近子) C107
 Takanoura Ryoko(高野浦亮子) D202

Takaya Kotarou(高谷康太郎) B302
 Takaya Yoshimasa(高谷美正) P184
 Takayabu Izuru(高藪出) B366
 Takeda Shigeo(武田重夫) P120
 Takei Chie(武井千恵) A365
 Takemi Tetsuya(竹見哲也) C163
 Takemi Tetsuya(竹見哲也) D112
 Takemura Toshihiko(竹村俊彦) B158
 Takeuchi Nobuo(竹内延夫) C167
 Tamiya Kyuichiro(田宮久一郎) D162
 Tanaka Akira(田中章) P189
 Tanaka Hiroharu(田中博春) P341
 Tanaka Hiroshi(田中博) B303
 Tanaka Hiroshi(田中博) D157
 Tanaka Kyoko(田中今日子) B160
 Tanaka Sou(田中創) P128
 Tanaka Taichu(田中泰宙) C114
 Tanaka Tomoaki(田中智章) P330
 Taniguchi Hiroshi(谷口博) D304
 Tanimoto Youichi(谷本陽一) B362
 Terada Toyonori(寺田登与徳) P180
 Terao Toru(寺尾徹) P177
 Terao Toru(寺尾徹) P309
 Tian Shao-fen(田少奮) P108
 Toda Yoko(戸田庸子) C304
 Tokinaga Hiroki(時長宏樹) P196
 Tokura Takayuki(十倉崇行) P375
 Tomikawa Yoshihiro(冨川喜弘) P322
 Tonouchi Michihiko(登内道彦) C364
 Tsuboki Kazuhisa(坪木和久) A357
 Tsubota Yukimasa(坪田幸政) D110
 Tsubota Yukimasa(坪田幸政) D165
 Tsuruta Haruo(鶴田治雄) C165
 Tushima Yoko(對馬洋子) B163
 Tsutsui Junichi(筒井純一) B308

<U>

Uchida Satoshi(内田敏) P156
 Uchiyama Akihiro(内山明博) P328
 Uchiyawa Tomomi(牛山朋来) A203
 Udagawa Yusuke(宇田川佑介) P116
 Ueda Hiroaki(植田宏昭) B206
 Ueda Hiroaki(植田宏昭) P304
 Uematsu Akihisa(植松明久) A165
 Uematsu Akihisa(植松明久) P370
 Ueno Kenichi(上野健一) P376
 Ueno Mitsuru(上野充) A356
 Umezawa Eikichi(梅澤栄吉) P355
 Urita Naomi(瓜田直美) P357

<W>

Wada Akiyoshi(和田章義) P390
 Wakazuki Yasutaka(若月泰孝) P187
 Watanabe Akira(渡辺明) A108
 Watanabe Koichi(渡辺幸一) P348

Watanabe Masahiro(渡部雅浩) D305
 Watanabe Shingo(渡辺真吾) D307
 Watanabe Takahiro(渡辺高宏) D352
 Wu Peiming(伍培明) B361

<X>

Xu Jianqing(徐健青) P133

<Y>

Yagai Isamu(谷貝勇) B352
 Yamada Hiroyuki(山田広幸) P378
 Yamada Maromu(山田丸) P147
 Yamamori Miho(山森美穂) P326
 Yamanaka Manabu(山中大学) D311
 Yamanouchi Akiko(山内明子) D362
 Yamanouchi Akiko(山内明子) D363
 Yamasaki Masanori(山岬正紀) A359
 Yamashita Akira(山下晃) P366
 Yamashita Kazuya(山下和也) D107
 Yamashita Yousuke(山下陽介) P323
 Yamauchi Hiroshi(山内洋) P183
 Yamauchi Hiroshi(山内洋) P362
 Yamazaki Koji(山崎孝治) D206
 Yamazaki Nobuo(山崎信雄) B354
 Yamazaki Nobuo(山崎信雄) B358
 Yamazaki Rintaro(山崎仁太郎) D111
 Yamazaki Takeshi(山崎剛) D365
 Yanagino Takeshi(柳野健) C357
 Yasuda Nobuhisa(安田延壽) P135
 Yasuda Tamaki(安田珠幾) P302
 Yasunaga Kazuaki(安永教明) A207
 Yasunari Teppei(安成哲平) P350
 Yatagai Akiyo(谷田貝亜紀代) B359
 Yi San-ghun(李相勳) P311
 Yohgai Toshiroh(用貝敏郎) A101
 Yokohata Tokuta(横島徳太) P101
 Yokoi Satoru(横井覚) P314
 Yokouchi Yoko(横内陽子) C111
 Yokoyama Chie(横山千恵) P391
 Yoneyama Kunio(米山邦夫) A210
 Yoshida Akira(吉田聡) D361
 Yoshida Yukio(吉田幸生) P132
 Yoshikawa Toshifumi(吉川敏文) A352
 Yoshimura Hiromasa(吉村裕正) D151
 Yoshino Jun(吉野純) D364
 Yoshioka Mayumi(吉岡真由美) A302
 Yumimoto Keiya(弓本桂也) C113
 Yumoto Michiaki(湯本道明) D101

<Z>

Zainul Akramin P178
 Zaizen Yuji(財前祐二) P351
 Zhang Cheng-zhong(張誠忠) A105
 Zhang Cheng-zhong(張誠忠) P179
 Zhang Daizhou(張代洲) C161